

ヲモ考慮シ応急ノ処置トシテ外務省巡查五十名ヲ臨時増員スルカ或ハ陸海軍滿期兵中ヨリ臨時雇員トシテ五十名ヲ選抜派遣スルカ或ハ海軍除隊兵中ヨリ漢口ニ於テ臨時警察補助員雇入ルルカ何レカノ方法ニ依リ警備ヲ充実セシムルノ案票請スルト共ニ海軍滿期兵中ヨリ警察官補助員五十名臨時雇入方遣外艦隊司令官ニ対シ非公式ニ依頼セリ

今次動乱ニ於テ支那人巡捕カ其ノ任ニ堪ヘサルヲ示シタルハ独リ漢口ニ止マラス長江筋各地ニ於テモ苦キ経験ヲ嘗メタルニ鑑ミ支那全般ニ於ケル支那人巡捕ヲ一律廃止シテ邦人巡查ヲ以テ之ニ代フルノ必要ヲ認メ昭和三年度予算中ニモ之ヲ計上シ支那人巡捕一律廃止ノ計画ヲ進メタリ然ルニ漢口ニ於テハ其後事態漸次安定シ永ク四三事件當時ノ租界防備ヲ存置スルノ必要無キノミナラス揚陸中ノ陸戦隊モ四三事件ニ伴フ一時的ノ措置ニシテ早晚租界ノ警察行政ヲ復旧セサル可ラス且陸戦隊服務中ト雖モ租界ノ警察事務ハ全部之ニ帰属セシメ得サル事情アリ急速警察力ノ充実ヲ計ル

ノ必要ニ迫リ居タル事情ニ鑑ミ前記予算成立ニ至ル迄ノ機宜ノ措置トシテ曩ニ高尾總領事ノ非公式依頼ニ基キ海軍省ニ於テ既ニ各鎮守府ニ命令シ選抜ヲ了セル昭和二年五月末

ロンドン 1月13日後発
本 省 1月14日後着

第一〇号

(1) 十三日本使英外相ヲ往訪シ先ツ本使ヨリ前回会談ノ時ヨリ支那ノ時局ハ益々悪化シ漢口今日ノ事態ヲ生スルニ至リタル處昨日閣議開催サレタル趣ナルカ此ノ先如何ナル措置ニ出テントスルヤト尋ネタルニ外相ハ上海カ漢口ノ二ノ舞ヲ演スルハ忍ヒサル處ナルカ現場ニ於ケル海兵義勇兵ノミニテハ到底間ニ合ハスト考へ居レルモ折柄十一日「チレー」ヨリ英國大使館武官ト日本參謀本部諜報部長トノ会談ニ於

テ同部長ハ上海ノ防御ニ若干ノ兵力ヲ出スコト必要トナルヘキニ日英両国ニテ話合ヲナシテハ如何ト述ヘタル趣電報シ来レリ之ニ対シ自分ハ右部長ノ談ニシテ日本政府ノauthorization ヲ得居ルモノナルニ於テハ英國トシテモ喜ンテ武官ニ authorization ヲ与ヘ当地ニ於テモ日本武官ト陸軍省ト話合ヲナスコトニ異存ナキモ果シテ右カ日本政府ノ authorize セル談ナリヤ聞質スヘキ旨電訓シ置ケリ何レ其ノ内何等回電アルヘシト述ヘ尚差当リノ問題トシテハ「オメリイ」ノ漢口行ナルカ右ハ無論租界取戻シノ目的ニ

満期除隊兵中ヨリ優良者五十名ヲ警察補助員トシテ採用シ昭和三年度予算成立ノ上ハ現地ニ於テ試験ノ上追々巡査ニ任命スルノ方針ヲ以テ右ニ要スル費用六三、二六七円ヲ応急警備費トシテ第二予備金中ヨリ支出スルコトトナレリ斯クシテ九月二十日海軍省ニ於テ前掲警察補助員ノ身体検査ヲ了シ合格者四十八名（欠員二名ハ其後直チニ補欠）ハ十月十日漢口ニ到着セリ会々漢口ノ事情ハ差当リ危険ナキ状態ニ在リタルヲ以テ高尾總領事ハ海軍側ト協議ノ上十月八日ヨリ租界一切ノ防備撤去ニ着手シ租界内外ノ交通ヲ自由ニシタルカ右警察補助員ニ対シテハ直ニ基礎的実地訓練ヲ開始シ其ノ配備ニ就カシメ得ル迄ノ間陸戦隊ハ哨兵ヲ撤退シ巡邏兵ヲ巡行セシメ租界ノ治安維持ニ任シタルカ警備員ハ十一月一日ヨリ愈々其ノ配備ニ就キ極メテ良好ナル成績ヲ挙ケ居留邦人ノ信頼ヲ博シツツアリ

(2) 上 海

301 昭和2年1月13日 在英國松井大使より
整原外務大臣宛（電報）

チエンバレン英外相が上海の防備に日本の兵力を必要とする旨談話について

シテ目下其ノ報告ヲ待チ居ル處ナルカ未タ回答ナシ尤モ取戻シト云フモ再ヒ軍艦兵力ヲ使用シ力ヲ以テ奪回スルカ如キハ全然感心セサル所ナリト云ヒ更ニ「チレー」ヨリノ返事アル迄ハ友邦ニモ前述ノ報道ハ之ヲ洩ササルモ若シ日本ニシテ出兵ニ同意セハ米仏ニ話ス必要アリ英國トシテハ香港ニ目下一大隊ノ兵アリ尚別ニ一大隊ヲ同地ニ向ハシメ又米国ニ於テ馬尼刺ヨリ海兵三百ヲ送ルモ右ノ兵力ヲ以テハ尚到底不足ナルヲ免レス現場ニ近キ日本ノ兵力ヲ必要トスル次第ナリト説キタリ

右ニ対シ本使ハ此ノ際陸軍ヲ上海ニ上陸サスコトハ支那全国ニ及ホス重大ナル結果ヲ考慮セサルヘカラス殊ニ今日南北ノ争未タ何レノ勝利ニ帰スルヤモ決セス果シテ上海ノ防御ノ為陸兵ノ上陸ヲ絶対ニ必要トスル事態ニ立至ルヘキヤ未タ明白ナラス勿論各国カ上海防衛ノ決心ヲ定ムレハ廣東軍之ニ手ヲ触ルルヲ控フヘキモ陸兵上陸ハ其ノ結果重大ナルヘキニ鑑ミ余程慎重ノ考慮ヲ遂ケサルヘカラサルノミナラス日本トシテハ支那ノ南北ヲ通シ重大ナル利害ヲ有スルコトニモアリ武官ノ話ハ如何ナルモノニヤトテ多少疑ノ余地ヲ残シ置ケリ

本使ハ次テ漢口事件後英米ノ話合ノ有無及覚書ニ対スル米
国回答ノ接受如何ヲ問ヒタルニ外相ハ目下ノ漢口問題ニ付
テハ何等話合セス覚書ニ付テハ在米英大使ヲシテ國務卿ト
談セシメタルモ米国ハ現在「ニカラグア」「墨西哥」中米

問題ニ忙殺サレ又最近支那時局ノ変転ニ鑑ミ「マクマレー」ヲ召還シ意見ヲ徵スルト共ニ「マ」ニ於テモ親シク政
府へ報告ノ為帰国スルモノラシク旁米国回答ニ付テハ何等
聞ク処ナシト答へ本使カ更ニ最近諸新聞カ「ソビエト」ノ
策動ヲ重大視シ「ソ」代表者ヲ英國ヨリ驅逐スヘシト論シ
居ル處右ハ何等政府ニ於テ考へ居ル處ナリヤト質シタルニ
對シテハ右ノ論ハ充分理由アリスヘテ斯ル事ハ何時起ルヤ
知レサルモ現在ノ處サル考ヲ決定シ居ラスト述ヘタリ尚外
相ハ本使ノ問ヒニ対シ廣東ノ事態ハ多少良クナリタルモ格
別改善スル処ナシト答へ最後ニ覚書ニ付種々弁護ヲ試ミ右
ハ支那ノ事態ノ何時迄モ放置シ置クノ不得策ナルニ鑑ミ自
分ヨリ先ツ一案ヲ提出シ若シ其不可ナルニ於テハ代案ノ提
出ヲ促ス迄ノ趣旨ニテ何等カ各国ニテ共同ノ方針ヲ定メ度
キ考ヨリ出テタルモノナリ將又自分ハ決シテ南方政府ヲ承
認スルノ意アルニ非ス「オメリ一」ノ漢口行モ該承認ニハ

「マ」ヲ召還シ意見ヲ徵スルト共ニ「マ」ニ於テモ親シク政

関係ナク唯一ノ modus vivendi ヲ案出スルカ主タル目的
ナリト述ヘタリ

302 昭和2年1月13日 在中国芳沢公使より
英公使上海防備のため日本の協力要請について

北京 1月13日後発 本省 1月14日前着
第六一号(極秘)
一月十三日英國公使ヲ訪問シタル處同公使ハ上海ノ防備ニ
就キ予テ日英米三国ニ於テ四千人ノ軍隊ヲ出スコトトナリ
英國トシテハ五百人ノ海兵ノ外香港ヨリ一大隊(約八百
人)ヲ呼寄セ得ル準備ヲ遂ケ置キ而シテ右ハ孫伝芳ノ軍隊
敗北ノ上ハ直ニ呼寄実行ノ手筈成リ居タル處英國總領事ヨ
リ自分ニ對シ漢口ノ事變ニ顧ミ孫ノ敗北ヲ俟タス自分ニ於
テ適当ト認ムル節ハ何時ニテモ直ニ之ヲ呼寄セ得ル權限ヲ
付与スル様本国政府ニ稟請方申越シタルヲ以テ自分モ尤モ
ト認メ直ニ本国政府ニ稟請シタル處今朝返電ニ接シタルカ
右ニ依レハ本国政府ハ異存ナシトノコトナルモ唯万一英國

軍隊ノミ防備ニ当ルカ如キコトトナリテ非常ナル危險ニ遭
遇スルコトハ面白カラサルニ付日米両國モ英國同様上海總
領事ノ裁量ニテ呼寄セ得ルコトシタキニ付其御含ヲ以テ
日米公使ニ交渉セヨトノ訓令ナリ自分ノ在邦英國大使ヨ
リ得タル電報ニ依レハ日本政府ハ三百人ノ海兵ノ外若干ノ
軍隊(併セテ千三百人トナル筈)ヲ吳ヨリ輸送スル準備ヲ
遂ケ居ラルトノコトナルカ更ニ一步ヲ進メ英國政府希望
ノ通り取計ハレ間敷クヤト述ヘタルニ付本使ハ英國大使來
電類似ノ報道(上海宛貴電第四号)ヲ入手シタルモ英國政
府ノ希望ニ對シテハ日本政府ニ請訓スルヨリ致シ方ナキ旨
答ヘタル處同公使ハ至急請訓方取計ハレタク自分ハ直ニ之
ヨリ米國公使ニ同様ノ申入ヲ為スヘシト述ヘタリ
惟フニ關係國領事ニ於テ危險ノ切迫ヲ認メ派兵ヲ必要トス
ル場合ニハ其裁量ニ委スルヨリ外致シ方ナキニ思考セラル
何分ノ儀御電訓ヲ請フ

上海へ転電セリ

(欄外記入) テ大使ノ誤解

303 昭和2年1月14日 在中國芳澤公使より
幣原外務大臣宛(電報)

上海防備のための出兵対策を米公使と協議に
ついて

第六六号(極秘)
(三〇文書)
往電第六一号ニ關シ
米國側ノ態度ヲ知ルノ必要ヲ認メ十三日夜米國公使ヲ訪問
シテ英國公使ノ提議ニ対スル米國側ノ意見ヲ尋ネタル處同
公使ハ米國側ニテハ千三百六十人ノ兵ヲ用意シアリ在上海
同國總領事ヨリ自分ニ對シ各國ノ軍隊ヲ早目ニ上陸セシム
ルコトハ余リニ一般ノ感情ヲ刺戟スルカ故面白カラス寧ロ
乗船ノ儘必要ノ時迄水上ニ残シ置ク方然ルヘキ旨ノ意見ヲ
申越シタルニ付自分ハ早速同意ノ旨返電シ置キタリ然ルニ
只今公使館付陸海軍武官ヲ召集シテ其意見ヲ尋ネタル處兩
人トモ上陸説ヲ支持シ居レリ(英國公使モ「チリット」司
令長官ノ來電ニ依レハ領事ノ裁量ニ依リ上海ニ軍隊ヲ呼寄
せ且上陸セシムルヲ得策トスト語レリ)本件ニ就キ実ハ貴
公使ニモ尋ねタシト考へ居リタル處ナルカ第一日本モ果シ
テ千三百人ヲ派遣スルヤ第二自分ノ意見ニテハ居留地カ危

殆ニ瀕シタル際相手カ「モップ」ナルト軍隊ナルトノ二ノ

場合ヲ区別スルコト困難ト思ハルニ付两者ノ間ニ区別ヲ

設ケサルコトシタク且居留地ヲ防護スルニ当リ必シモ

居留地境界線ヲ防護スル必要ナシト思ハルルカ貴見如何ト

尋ネタルニ付本使ハ第一実ハ本使ノ手許ニ在ル情報ノミニ

テハ千三百人ヲ出スコトハ未タ判然セサルモ英米両国ニテ

千三百人宛派遣スル以上日本モ之ト同数ヲ出スコトハ多分

異存ナカラムト思ハル第二「モップ」ノ中ニハ或ハ兵隊モ

加ハリ居ルヘク事変ノ際ハ勿論両者ヲ区別スルコト困難ナ

ルヘク又居留地ヲ防護スルニ当リ是非共境界線ニ依ルト言

フ必要モナカルヘク此点ハ軍隊指揮官ニ於テ現場ノ状況ニ

応シ軍事的見地ヨリ決定スヘキモノト思ハルト答へ置キタ

リ

上海へ転電セリ

304 昭和2年1月15日

在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

上海方面防備に関する英米仏日四國領事会議

覚書について

別電

一月十五日付在上海矢田總領事より幣原外

305 昭和2年1月19日

在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

上海租界防衛のための軍隊派遣に關し英國公

使協力依頼について

北京 1月19日後発
本省 1月20日前着

第九九号(極秘)

(三)現下ノ状況ハ工務局ノ申出タル一千名ノ水兵ヲ上陸セシ
ムル必要ヲ「インディケート」セス
四将来防備線ニ幾何ノ兵力ヲ要スルヤハ漢口英租界事件ノ
結果如何ニカカル

若シ此事件ノ解決支那ニ於ケル外国租界ノ「ステータス」
ニ「アンフェボラブル」ナル場合ハ上海ノ外国人ノ生命財
産保護ノ為合計四千ニテハ兵力甚タシク不足ナリト認ム
蓋シ四千名ノ計画ハ漢口事件突発以前當地方ヲ占領スヘキ
廣東軍トノ交渉ヲ考慮ニ入レテノ提案ナリシモ漢口ニ於ケ
ル実験ハ廣東軍トノ間ニ協定スヘキ了解ニハ寸毫モ信頼シ
得サル事ヲ示セハナリ

在支公使、漢口、廣東へ転電セリ

務大臣宛第四三号 右覺書

上海 1月15日後発

本省 1月16日前着

第四二号

往電第二八号ニ閲シ

英國總領事ノ発案ニテ海軍力ヲ有スル國ノ領事会合シテ意
見ヲ交換スルコトトナリ英、米、仏、日ノ四國領事十五日

米國領事館ニ集合シ數時間ニ瓦リ議論ヲ尽シタル上其一致

シタル点ヲ別電第四三号ノ通覚書トシ公使、海軍司令官等

ニ報告スル事トナリ

尚伊國領事ヲ加ヘサリシハ其海軍カ百名ヲ上陸セシメ得ル
ニ過キスシテ大局ニ關係尠キノミナラス同領事ハ英語モ支
那語モ不通ニテ意志ノ疎通出来サル故ナリ

司令官ニ転電方高尾總領事ニ依頼ス

別電ト共ニ北京、漢口、廣東へ転電セリ

(別電)

上海 1月15日後発
本省 1月16日前着

第四三号

(一)孫伝芳ノ軍敗戦スル迄ハ上陸兵ヲ以テ防備線(コルド

ン)ヲ張ル必要ナシ

(二)孫伝芳軍敗戦前ニ於ケル地方的事件、ストライキ、其他
ノ騷擾ニ付警察及義勇隊ノ力ニテ「コントロール」出来
ナクナリタル場合ニ之等掩護ノ為ニハ上海及付近現存ノ
海軍力ヨリ一千名乃至一千五百名ヲ上陸シ得レハ充分ナ
リ

英國公使一月十九日來訪日英米三国ヨリ四千人ノ海兵ヲ出
シテ上海租界ノ防備ヲナスコトトナリ居レルカ英國政府ハ
右ノ外更ニ千人ノ海兵(巡洋艦隊モ含マル)ハ既ニ決定
濟尚右ノ外印度ヨリ一旅団ノ陸兵ヲ送ルコトニ準備スルコ
ト但シ右一旅団ハ日本カ陸兵ヲ送ルコトヲ条件トストノ趣
旨ノ電訓ニ接シタリ右ニ付テハ在本邦英國大使ヨリ日本外
務大臣ニ説得スル管ナルカ貴公使ニ於テモ御同意ノ上尽力
ヲ望ムト述ヘタルニ付本使ハ上海發閣下宛(三〇四文書)
往電第四三号末項即チ四千名ノ計画ハ漢口事件突発以前ノ状況ニ基キタル
モノナルコトノ情報ニ顧ミ英國公使ニ對シ貴公使ノ談ニ依
レハ(一)英國司令長官「チリット」中將ノ計算ニテハ上海居

留地ノ防備ニハ結局一師団ヲ要スルコト〔〕英國政府ハ攻撃者カ軍隊ナルト暴徒ナルト識別スルコト困難ナルニ付右

二ツノ場合ニ応シ得ル様計画ヲ樹テタリトノ事ナルカ〔〕ノ

場合ニ付テハ本使ハ予テ事変ノ際ニハ暴徒ト軍隊トヲ区別シテ準備ヲ為ス事ハ困難ナリトノ意見ナルカ故仮ニ英國司令長官ノ計算ニシテ確実ナリトセハ主義上「リインフォースメント」ヲ要スト思考ス左リ乍ラ我方ノ専門家カ英國司令長官ト同一計画ヲ樹ツルカ又同一ノ計算ヲ樹ツルモ我方ニ於テ一個旅團ヲ送ルコトトスヘキカ一連隊ヲ送ルコトトスヘキカ一個大隊ヲ送ルコトトスヘキヤハ勿論考慮ヲ要スト述ヘタル処同公使ハ良ク了解セリ本件ニ付テハ英國大使ヨリ日本外務大臣ニ御話スルト同時ニ大使館付陸軍海軍武官ヨリモ夫々日本陸軍海軍ニ交渉スルコトトナリ居レリト語リタリ

306 昭和2年1月22日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

上海防備に關し市參事會との協力措置方バ
トン英國總領事に申出について

上海 1月22日後發

本省 1月23日前着

第六一號
(三〇四文書)
往電第四二号ニ閱シ

二十二日午後英國總領事來訪今朝孫軍浙江ニ破レタリトノ

風評アリ杭州へ聞合セタルニ同地ニモ同様流言盛ナリトノコトニテ事實ラシク思ハルル處他方當地ノ形態ハ兩三日來甚夕面白カラス解決シタル電車ノ罷業モ今朝運転開始ノ筈ナルカ今尚其ノ模様無キ而已ナラス却テ罷業ハ「バス」ニ

モ拡大シ且水道電話瓦斯ノ三会社(共ニ英國会社)ニ対シテ最モ煽動脅迫頻リナリトノ報告有リ何者カ此ノ背後ニ有ルコトハ最早疑無ク旁先般四國總領事申合セノ次第ハアリタルモ後レテ間ニ合ハサルヨリハ優ト考ヘ今日香港ヘ打電シ千三百ノ印度兵ヲ呼寄セルコトトセル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ孫軍カ蘭谿付近ニ於テ「シリヤス」ナル戰鬪ヲ開始シタルハ事實ナルヘキモ敗北ト極メルハ少シ早キニ失スル様ナリト述ヘ尚其ノ際本官ハ我等ハ上海租界ノ防衛ト言ヒ秩序ト言フモ右ハ外国人ノ為ノミナラス支那人ヲモ同時ニ保護スル次第ナレハ支那人市參事會員ノ出来ル迄ハ例ヘハ先般工務局ノ催シタル上海防衛ノ相談会ノ如キモノニ代表

第七号

308 昭和2年1月26日 在英國松井大使より
幣原外務大臣宛(電報)

英國の中國出兵に關する新聞論調について

ロンドン 本省 1月26日前着 発

本省 1月24日後着

当地九竜駐屯「パンジュブ」兵約四百、二十三日夜警備ノ為上海へ向ケ出発セリ

市參事會議長ヘ面陳セントスル所ナリト述ヘタルニ英國總領事ハ大イニ喜ヒ自分モ氣力付カサリシカ早速引受ケテ市參事會員ヲ説クヘシト意氣込ミタルニ付然ラハ貴下ヲ煩ハスヘシト一任セリ

右會見後米國總領事ヨリ問合アリタルニ付本官ハ英國總領

事ノ措置ハ同總領事ニ任セ自分トシテハ先般ノ申合ヲ变更スル意思無シト答ヘタルニ米國總領事ハ極メテ同感ナリ自分モ何等措置ヲ執ラサルヘシト言ヘリ

北京、漢口へ転電セリ

307 昭和2年1月24日 在香港村上總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

九竜駐屯英パンジュブ兵四百名上海へ出発に

ついて

香港 1月24日後發

英國ノ支那出兵ニ関シ二十四日「テレグラフ」社説ハ右兵力ノ示威ハ政府内ニ於ケル軍閥ノ勝利ナリトシ或ハ覺書ノ融和的態度ニ悖ルモノトナスモノ有レトモ之皆党派的偏見ニ出ツルモノニシテ支那ニ於ケル英國ノ正当ナル利益ノ莫大ト目下ノ危険ノ重大ヲ知ル者ハ何人モ眞面目ニ右出兵ヲ非難シ得ス英國ノ方針ハ明瞭ニシテ常ニ自由政策ヲ以テ進ム覺悟ナルモ不当ナル攻擊ニ對シテハ飽ク迄同胞ヲ保護スル固キ決心ヲ有スルモノナリト論シ「モーニングポスト」モ亦出兵ハ支那ト戦端ヲ開カントスルモノニ非スシテ單ニ

国民ノ生命財産ヲ保護セントスルニ過キサル旨ヲ述ヘ尚蔣介石ハ「ソヴィエット」排英政策ノ傀儡ニ過キサルヲ以テ莫斯科ハ寵業中炭坑夫ヲ扶助セルト同様其ノ金ヲ以テ出来得ル限り之ヲ援助スヘシ今ヤ實際上露西亞ハ英帝国ニ対シテ戰争シツツアリ我カ政治家カ此ノ明瞭ナル事實ニ目醒ムヘキ秋來レリ英國ノ平和ト安全ニ対スルノ大陰謀ヲ徹底的ニ打破セサル限り支那其ノ他ノ地ニ於テ英國ハ平和ヲ期待シ得スト論ス尚二十四五兩日新聞報要点左ノ如シ

一、「テレグラフ」東京特電ハ本邦諸新聞ハ英國カ揚子江沿岸ノ居留地保持ト上海ノ防衛ニ日本ノ協力ヲ求メタルニ対シ日本ハ他国ト協定又ハ（脱^{マニ}）道程ニ入ルヲ得ス其ノ利益又ハ臣民ノ生命ニシテ危殆ニ瀕セサル限り嚴ニ不干涉ノ態度ヲ持スル旨ヲ回答シタリト報シ居ル旨ヲ伝

二、尚同紙ハ日本ハ上海租界内ニ大ナル商業上ノ利益ヲ有スルモ英國カ覺書ニヨリ行動ノ自由ヲ主張シタルヲ理由トシテ又独立ノ政策遂行トヲ主張シ広東政府ト交渉セス北京ノ幽靈内閣ト交渉シツツアリ英國ハ「オメリー」ヲシテ廣東政府ト交渉セシメツツアルモ他方「ラムソン」

310 昭和2年1月27日 在漢口高尾總領事より
整原外務大臣宛（電報）

日本が上海出兵に慎重な態度をとるよう黄郛の要請について

漢口 1月27日後発	本省 1月28日前着
------------	------------

第七二号

上海へ転電セリ

旅団合計三個旅団外ニ海兵三千ヲ出ス事ニ決定セリト語レリ

310 昭和2年1月27日 在漢口高尾總領事より
整原外務大臣宛（電報）

日本が上海出兵に慎重な態度をとるよう黄郛の要請について

漢口 1月27日後発	本省 1月28日前着
------------	------------

第七二号

上海へ転電セリ

上海防備問題ニ対スル陳友仁等ノ感想ハ累次電報ノ通リナ

ル处昨日来当地ニ英國本国ヨリ三個旅団ノ陸兵上海へ出動スヘシトノ報伝ハリ之ニ対シ国民政府幹部等ハ英國ノ右ノ拳動ハ明ニ宣戰ノ布告ニ等シク不都合至極ナリト憤慨シ居レルカ之ト同時ニ日本カ英國ニ誘ハレテ同地ニ出兵シ共同動作ニ出ルナキヤヲ怖レ居リ現ニ黃郛ハ曩ニ本官ニ対シ上

海ノ事態ニ就テハ蔣介石モ殊ノ外憂慮シ居リ國民軍トシテハ断シテ租界ニ対シ難ヲ醸スカ如キコトヲ為サヌ差当リノ希望トシテハ租界組織ノ改善ヲ行ヒ得レハ満足ニテ（例ヘ

モ適當ノ時期ニ北京政府トモ同様交渉スル權限ヲ与ヘラレ居ル事ヲ交渉スルヲ可トス又米國ハ上海ニ於テ英國ト協力スル用意アル事殆ト疑ナキ旨ノ外交記事ヲ掲ケタリ三、「ガーデアン」上海特電ハ在支米國官憲ハ英國ノ行動ヲ誘發スル危險ヲ憂慮シ居ル旨並ニ日本ハ在留民ノ生命財產保護ノ最後ノ手段トシテノ外軍隊ヲ上海ニ上陸セシムルヲ欲セサル旨ヲ報ス

309 昭和2年1月26日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

日本の陸兵派遣拒否により英國は追加派兵を

決定との英公使談話について

北京 本省 1月26日後着	發
---------------	---

第一三九号（極秘）

一月二十五日英國公使ト会談ノ節同公使ハ上海防備ノ問題ニ關シ「チリット」提督カ四千人ニテハ不充分ナリ少クモ一個師団ヲ要ストノ意見ナル處日本カ陸兵ノ派遣ヲ断ハリタル結果印度ヨリ一旅団地中海方面ヨリ一旅団本国ヨリ一

ハ支那人參政權ノ如シト言ヘリ）此等ニ就テハ徐ニ合理的和平手段ニ依リ措置スル心算ナルカ英國ノ如ク敢テ躍起ニ自ラ大袈裟ナル防備ヲ施シ人心ヲ挑発スルハ遺憾ニテ斯クテハ又漢口ノ如キ不祥事ヲ見ストモ限ラス其場合日本トシテハ自国人保護ノ為陸戰隊ヲ上陸セシムル必要アルヘキモ夫レハ主トシテ虹口ノ如キ日本人集團地点ノミニ限ラレ南京路ノ如キ危險地帶ニ英兵ト共ニ動作セシメラルコトハ切ニ見合ハサレタク要ハ此際如何ニモシテ日本トノ衝突ハ避ケタキ希望ナリト言ヘルコトアリ其後主要人物等ノ談ヲ総合スルモ大差ナク何レモ上海ニ武力ヲ用フヘシト為スモノナシ

北京、上海へ転電セリ

311 昭和2年1月27日 在米國松平大使より
幣原外務大臣宛（電報）

英國の上海出兵問題等に關しケロッグ米國務長官と会談について

ワシントン 1月27日後発	本省 1月28日後着
---------------	------------

(1) 二十七日國務長官ハ目下ノ形勢ニ於テ南北両派ノ代表ヲ会合セシメ協議スルコト実際出来得ヘキヤト問ヒタルニ付本使ハ何問題ヲ議スル意ナリト言ヘルニ付本使ハ南北ノ関係ニ就テハ過日モ御話シタル通リナリトテ往電第二二号其二後段ノ趣旨ヲ繰返シ詳細説明シ猶日米初メ英國其他列国共同シテ該會議ノ開催ヲ開カハ或ハ会合シ得ルコトモアルヘシト思ハルル旨答ヘタルニ長官ハ上海方面ノ形勢ニ就キ憂慮ノ模様ニテ同地方ニ英支間兵力ノ衝突起ルカ如キコトアリテハ事甚夕面倒ナルニ付右衝突ニ起ラサルニ先立チ支那側トノ間ニ上海中立地帯ノ設置トカ何トカ談合ヲ付ケルト共ニ場合ニ依リテハ其他ノ問題モ協議スルコトモ一策ナルカ英國側ノ漢口ニ於ケル南方トノ談判ノ模様少シモ判ラス同国トシテハ或ハ此種談合ニ共同スルコト如何カト思ハルト述ヘタリ

次テ國務長官ハ目下ノ形勢ニ於テ南北両派ノ代表ヲ会合セシメ協議スル意ナリヤト問ヒタルニ付本使ハ先ツ穩健ト思考スルト答ヘ置キタリ

次テ國務長官ハ目下ノ形勢ニ於テ南北両派ノ代表ヲ会合セシメ協議スルコト実際出来得ヘキヤト問ヒタルニ付本使ハ何問題ヲ議スル意ナリト言ヘルニ付本使ハ南北ノ関係ニ就テハ過日モ御話シタル通リナリトテ往電第二二号其二後段ノ趣旨ヲ繰返シ詳細説明シ猶日米初メ英國其他列国共同シテ該會議ノ開催ヲ開カハ或ハ会合シ得ルコトモアルヘシト思ハルル旨答ヘタルニ長官ハ上海方面ノ形勢ニ就キ憂慮ノ模様ニテ同地方ニ英支間兵力ノ衝突起ルカ如キコトアリテハ事甚夕面倒ナルニ付右衝突ニ起ラサルニ先立チ支那側トノ間ニ上海中立地帯ノ設置トカ何トカ談合ヲ付ケルト共ニ場合ニ依リテハ其他ノ問題モ協議スルコトモ一策ナルカ英國側ノ漢口ニ於ケル南方トノ談判ノ模様少シモ判ラス同国トシテハ或ハ此種談合ニ共同スルコト如何カト思ハルト述ヘタリ

為スカ如キハ今日之ヲ考ヘ居ラサルヘント述ヘタルニ長官ハ自分ノ考モ其ノ通ナリト申シ居リタリ
英へ転電シ英ヲシテ仏ニ転電セシム

312 昭和2年1月28日 在上海矢田總領事より
本省 1月28日後発
　　1月29日前着
　　幣原外務大臣宛(電報)

英國の対中國出兵反対の風潮について

第七五号

英國今次ノ對支派兵ニ關シ江蘇全省教育会、中華全國警鐘會、國民大學學生会及ヒ商務印書館工會ハ夫々要領左ノ如

キ宣言ヲ發表セリ英支間各種不祥事件ノ發生ハ不平等條約

ノ存立ト英國ノ對支派兵政策ノ結果ナリ英國ハ此ノ政策ノ非ヲ悟ラス英兵ノ對支派遣ヲ行フニ對シ吾人ハ拳國一致奮起シテ之ニ反対スヘク友邦各國ノ了解ヲ求ム云々又當地學生連合会ハ倫敦英國自由黨労働党本部ニ對シ(一)不平等條約取消ハ國民ノ希望ニシテ赤化ト全然關係ナク(二)支那民衆ノ排英運動ハ支那ニ對シ封建政策ヲ執レル英國政府ニ反対スルモノニシテ英國人民ニ反対スル所謂排英ニ非ス

(2) 依テ本使ハ英國ノ漢口談判ハ余リ円滑ニ進行シ居ラサル様子ナルノミナラス今回英國陸軍ノ出動ハ却テ該談判ヲ困難ナラシムルカトモ思ハル旁々英國側ハ日米両国一致シテ之ヲ誘引セハ案外之ニ傾ムクカトモ考ヘラルト述ヘタル処長官ハ如何ナル形式ニテ招請スル事然ルヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ全然私見ナルモ此際直ニ公式ニ之カ招請ヲ為ス事ハ面白カラス先ツ出先官憲ヲシテ非公式ニ南北ノ意向ヲ探ラシムル事トシ他方英國ヲ誘引スル事可ナルヘシト述ヘ兎ニ角之ヲ試ムル事然ルヘシト述ヘタルニ長官ハ篤ト研究ヲ遂ケ度ク大統領トモ協議スヘシト述ヘタリ

尚右会談ノ際國務長官ハ南軍ハ上海若ハ租界内ニ進入ヲ試ムヘキヤ然スレハ英國ハ飽ク迄南軍ヲ租界ニ入レサル決心ノ趣ニ付遂ニ之ト戰争スルニ至ル無キヲ保セス其ノ場合ニハ日米共極メテ因難ナル状態ニ陥ルヘキカ日本ハ如何ニセラルヘキヤト問ヒタルニ付本使ハ列國ハ今日ノ如ク万ノ準備ヲ有スル次第ニ付坂ニ南軍カ上海ニ迫リタリタルモ交渉ニ依ラスシテ直ニ武力ヲ以テ租界回収ヲ試ミントハ思ハレサルモ万ノ進入ノ場合ニハ日本トシテハ海兵ヲ以テ居留地ヲ保護スルニ止リ英國ト共ニ南軍全体ヲ敵トシテ戰争ヲ

(3) 支那当局ノ漢口事件ニ對スル措置ハ國民主義ニ根拠シ全國学生ノ一致擁護スルモノニシテ(四)漢口、九江両事件ハ英國保守党政府ノ責任ニシテ英政府ニ於テ当然賠償其他ノ責ニ任スヘク(五)英國政府ハ即時在支駐屯陸海軍全部ヲ撤退セシメ(六)英支間一切ノ不平等條約ヲ取消シ平等互惠條約ヲ締結スル事ノ六箇条ヲ挙ケ英國民衆ノ公平ナル判断ニ訴フル旨通電ヲ發セリ又二十五日漢口発東方電ニ依レハ國民政府ハ當地民黨員ニ對シ此際輕挙ヲ警メ列國並ニ反対派ニ口実ヲ与ヘサル様訓令シタル由ノ處二十八日當地支那紙ハ當地国民党省党部ノ對漢口九江事件宣言ヲ所報セリ其ノ要領左ノ如シ

(漢口九江事件以後一般排英風潮盛ナリト雖モ吾人ノ反対スル所ハ英國ノ侵略的帝國主義政策ニシテ決シテ英國人民ニ非ス租界回収ニ至テハ固ヨリ国民政府外交政策ノ一ナリト雖モ漢口九江ニ於ケルカ如キ突発事件ノ生セサル限り各地ノ租界即時回収ノ意志ナシ然レハ各國租界當局者ハ恐慌ノ余リ其ノ措置ヲ誤ルカ如キ事アルヘカラス)

北京ニ転電シ漢口、廣東ニ郵送セリ

313 昭和2年1月30日 在英國松井大使より
幣原外務大臣宛(電報)

英國の中國向出兵状況について

第三三号
「カーベンタア」中佐ノ率ユル一千ノ marines ハ二十五
日既ニ「ボーツマス」ヲ出発シタリ又陸軍省ノ公表ニ依レ
ハ上海防衛軍ハ「ダンカン」少将指揮ノ下ニ第十三及ヒ第十
四歩兵旅団第二印度歩兵旅団砲兵隊若干装甲自動車一中隊
及補助部隊ヲ以テ組織セラレ同軍兵數合計約一万三千「ダ
ンカン」將軍ハ二十五日「メガンティック」号ニテ「リヴ
アプール」発同船ハ二月二十六日上海着ノ予定ナル處途中
「マルタ」ニ寄港シ目下同地ニアル第十四旅団中ノ二大隊
ヲ搭乗セシメ同旅団中他ニ二大隊及第十三旅団ニ属スル四
大隊並ニ砲兵隊装甲自動車隊及補助部隊ハ二十九日迄ニ全
部「ザザンプトン」又ハ「ロンドン」港ヨリ出発シ終ル筈、
又二十七日発「ロイタア」通信ニ依レハ第二十印度旅団中
二大隊ハ同日各々「ボンベイ」及「カルカッタ」ヲ出発セ
ル由

本省 1月30日前着 発
ロンドン

432

カン事ヲ勧告スルト共ニ米國政府ハ上海居留地ノ「ステ
タス」変更ノ為適當ニ成立セル交渉ニ参加スルノ準備有ル
事ヲ通告セントスルモノニシテ同長官ハ列國モ同様ノ措置
ニ出テラレナハ可ナルヘキカト述ヘ尚同席ノ極東部長ハ右
後段居留地ノ「ステータス」変更ハ昨年来上海領事団及外
交團等ニテ協議シ來リタル問題ヲ意味スルモノニシテ新規
ノ問題ニ非スト述ヘタリ依テ本使ハ右ハ列國共同ニ為サン
トノ趣旨ナルカト尋ネタルニ長官ハ上海問題ニ付テハ各國
立場ヲ異ニスル点モ有リ右ハ米國側ヨリ列國ニ対シ共同行
為ヲ提議スル意味合ニハ非スト云ヘルニ付本使ハ上海中立
ノ問題ニ付テハ目下日本政府モ慎重考究中ナルカ此ノ際
國ノミカスノ如キ措置ニ出ツル事ハ思ハサル誤解ノ種ト成
ル虞モ有リナルヘク共同行為トスル事ハ如何カト述ヘタル
ニ長官ハ此ノ点ニ付テハ明答ヲ避ケタルカ右通告ニ付テハ
目下「マクマレイ」ノ意見ヲ徵シ居ル旨ヲ語レリ
右談話ニ顧ミルニ米國側ハ英國ノ如ク出兵ヲ実行シツツア
ル國アリ居留民ノ數鮮ナキ國モ有リ各自立場ヲ異ニセル為
共同動作ヲ取ル事六ヶ敷キ場合ヲ顧念シ先ツ単独ニテモ本
件通告ヲ為ス意向カト察セラル尤日本其ノ他ヲ出シ抜ク積

第一巡洋艦隊ハ十九日既ニ「マルタ」ヲ發シ他ノ一隻及病
院船ハ準備完成次第出発ノ筈又目下「マルタ」ニ在ル河用
砲艦二隻駆逐艦二隻護送ノ下ニ二月七日迄ニ「マルタ」發
第八駆逐艦隊(九隻ヨリ成ル)二月十日頃「チャタム」發
航空母艦「アガス」(飛行機二十隻搭載)二月一日「ボ
ーツマス」發ノ予定

314 昭和2年1月31日 在米國松平大使より
幣原外務大臣宛(電報)

上海租界中立に関する米國務長官の意向につ
いて

ワシントン 1月31日後発
本省 2月1日後着

第三九号
貴電第五二号ニ閑シ
三十一年國務長官ニ面会シ貴電ノ御趣旨ヲ伝ヘタル處同長
官ハ貴大臣ノ好意ヲ謝シ右閣下ニ伝達方ヲ依頼セリ其ノ際
長官ハ上海問題ニ言及シ「マクマレイ」宛電報ノ一部ヲ読み
聞カセタルカ其ノ趣旨ハ米國政府ハ南北ノ諸指揮官ニ対シ
在留米国人及他ノ外国人保護ノ為同地ヲ交戦地帯以外ニ置

ワシントン 1月31日後発
本省 2月1日後着

315 昭和2年2月1日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

第三九号
貴電第五二号ニ閑シ

315 昭和2年2月1日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

リハ無キモノノ如ク列國カ同様ノ措置ニ出ツル事ハ寧ロ歟
迎スル様ノ口吻ナリキ
英ニ転電シ仮ニ転電セシム

英の大量出兵に対する国民政府側および孫
伝芳の反応について

上海 2月1日後発
本省 2月2日前着

第八二号
英國カ一面讓歩ヲ重ネタル妥協案ヲ提出シテ局面ノ收拾ニ
苦心シ乍ラ他面南軍ト開戦スルニハ少數ニ失シ上海防備ノ
為ニハ過大ナル兵數ヲ派遣スルニ決シタル裏面ノ事情ニ関
シ各方面ニ於テ種々臆測行ハレ居ル處卑見ニ拠レハ先般新
任支那艦隊司令長官当地來着ノ際組織アル支那軍隊ニ対シ
上海ヲ有効ニ防禦スルニハ少クトモ一万五千ノ陸兵ヲ要ス
トノ意見ヲ上申シタルモノノ如ク往電(二〇四文書)第四二号四國總領事
会合ノ際英國總領事ハ第四項ニ關シ此地ニ一万五千ノ陸兵
ヲ駐屯セシメンカ漢口事件ノ如キハ發生セサリシナルヘク

433

発生シタリトモ即時解決スヘシト陳へ頻ニ右兵数ヲ「メンション」スヘシト主張シタリシモ本官ヨリ幾何ノ兵力ヲ要スルヤハ軍事専門家ニ一任スヘキ問題ナリト反対シテ之カハ英人思想ノ奥底ニ武力ノ「ディスペレー」カ支那人ヲ屈服セシム最上策ナリトノ伝統的觀念依然潜在スル結果ナリト断定スルヲ得ヘシ

而シテ右威嚇政策ノ効果如何ヲ考察スルニ

(一) 南軍首領等ニ対シテハ彼等ノ英國人ニ対シ最モ不快ヲ感スルハ此凶惡手段ナル旨ヲ広言シ居ル手前又彼等カ民衆ヲ煽動シテ之ヲ組織的ニ指導スル時ハ大砲艦ノ遙カニ及ハサル有効ナル武器ナル事ヲ發見シ之ヲ確信セル際前掲陸兵派遣ハ却テ反英熱ヲ煽リ折角ノ讓歩モ有難味ヲ失ヒ更ニ第二次ノ妥協的声明ヲ余儀ナクセシムル羽目ニ陥ルモノカ又ハ英國トノ正面衝突ハ革命事業ヲ半ニシテ挫折セシムルモノナルヲ覺リ英國ノ提案ヲ賞讃シテ帝國主義ヲ拠棄シタリト宣伝シ之妥協スヘキヤハ今後ノ發展ニ

316 昭和2年2月2日

幣原外務大臣より
在米国松平大使宛 (電報)

英國の出兵に関する孫伝芳の態度について

本省 2月2日後発

第五九号

在南京領事來電第一九号及第三〇号要領左ノ通

一月二十七日本官佐分利ト共ニ孫伝芳ト會談ノ際佐分利ヨリ英國カ南方ト武力衝突ヲ為スコトアル場合ノ北方態度ニ關シ在支外国人中ニハ北方ハ傍観スルモノト觀察スル向鮮カラサルカ如何ト尋ねタルニ対シ孫ハ右ノ觀察ハ団匪事件

當時ノ支那カ今日ノ支那ト全然異ル所ナシトノ推断ニ基クモノト察セラレ殊ニ在支英國官民カ何レモ二十年前ノ陳腐ナル頭腦ノ持主ナル結果自然スル誤解ニ陥レルモノナリト答ヘ暗ニ英國南方衝突ノ場合孫モ立チテ英國ヲ排斥スヘシトノ口吻ヲ洩シタルカ一方孫カ二十九日付ヲ以テ在支中外

公私團体ニ宛テ通電ヲ發シ漢口租界事件ハ局部問題ニ係リ之ニ依リテ武力解決ヲ云為スヘキ筋合ニ非ス將又治安維持ハ支那側ニ於テ完全ニ責任ヲ負ヒ外人ノ生命財産ヲ保護スヘキコトハ既ニ孫ニ於テ声明シ置タルニ拘ラス英國ニ於テ

俟タサレハ判断シ難キモ若シ英國カ右陸兵派遣ヲナサスシテ讓歩案ヲ提出シタリトセンカ南軍トノ妥協ハ可能性拘ハラス往電第七二号ノ英國側ノ孫伝芳大敗ノ宣伝ニテ無形ノ損害ヲ与ヘラレタル恨ミモ手伝フモノナルヘク甚タシク英國ノ措置ニ憤慨シ若シ英兵租界以外ニ入ランカ自分ハ進ンテ南軍ト握手シテ迄モ之ニ抵抗スヘシト意氣込ミ居ル由 (岡村中佐ノ談) 二付二十九日ノ孫ノ通電ハ其一端ヲ現ハセルモノト見ラル三十一日本官新任劉警察庁長ヲ答礼ノ為訪問シタル際同人モ同様英兵ノ来滬ヲ憤リ二十年前ナラハイサ知ラス今日ノ支那人ハ一万五千ノ陸兵カ來タトテ怖ルル事ナシ却テ反感ヲ挑発スルノミナリ明日辺リヨリ当地民間ヨリモ英兵上陸反対ノ運動始マルヘシト語レリ

北京、奉天、天津、濟南、漢口、廣東へ転電シ南京、蘇州杭州へ暗送セリ

317 昭和2年2月3日

幣原外務大臣より
在英國松井大使宛 (電報)

英國出兵問題に関する英國大使に述べたる私見について

本省 2月3日後発

第三一号 (極秘)

二月二日在本邦英國大使本大臣ヲ來訪シ英國ノ對支出兵ニ関スル本大臣ノ議會ニ於ケル答弁ニ對シ「チエンバレン」ノ謝意ヲ伝達スヘキ旨訓令ニ接シタリト述ヘタルカ其ノ際本大臣ハ英國出兵問題ニ対シテハ獨リ南方側ノミナラス孫

伝芳張作霖方面ニ於テモ反対ノ声高ク又新聞電報ニ依レハ陳友仁ハ愈々「オメリ」トノ交渉ヲ断絶シ英國ノ出兵ヲ其ノ理由又ハ口実トナセル由ナリ英國政府トシテハ右派遣軍隊カ上海ニ到着ノ上ハ之ヲ久シク船中ニ留ムルコトヲ得サルヘク結局ハ上陸セシムルノ外ナカルヘキ處事茲ニ至ラハ形勢ヲ安定セシムルヨリモ却テ悪化セシムル虞ナキヤヲ惧ル自分ハ元ヨリ英國ノ決意ニ対シ何等干涉スル意思ナキモ私カニ英國ノ為ニ考フルニ右派遣兵ヲ當分香港ニ止メ置キ形勢ヲ看ルコトトシ同時ニ支那側ニ対シテハ右出兵ハ純然タル予防的行為ニ止マリ目下直ニ之ヲ上海ニ集中スルノ意思ナキ旨ヲ声明セラルレハ支那人ノ感情ヲ緩和スル上ニ効果ナキニ非ルヘシト述ヘタル處同大使ハ自分モ同感ニシテ善キ思ヒ付ト思考スルニ付本国政府ニ電報スヘシト述ヘタルニ付本大臣ハ重ネテ右ハ一己ノ私見ヲ打明ケタル迄ニテ何等英國政府ニ對スル提議ニアラサル旨ヲ付言シ置キタリ尚未同大使ハ「バーミンガム」ニ於ケル英外相ノ演説ニ対シ日本ノ有力ナル新聞ノ態度冷淡ナルノミナラス多少酷評ヲ加フルモノモアルコトニ言及シタルヲ以テ本大臣ハ議會等ニテ多忙ノ為内地新聞論評ノ詳細ハ承知セサルモ日本ノ人モ亦貴方同様彼等自身ニ於テ措置スト云ヘル旨ヲ答ヘタリ

旨ヲ答ヘタルニ付然ラハ日本人ハ租界外ニ居住スルモノ數千ニ上リ貧困者モ多キニ付到底之等ヲ租界内ニ収容スル事不可能ナルヲ以テ其ノ場ニ於テ保護スル事ニ司令官トモ協議済ナレハ日本人ノ保護引揚等ノ事ハ當方ニ於テ処置スヘキ旨明言シ置キタリ又米人ニ付テハ如何ト問ヒタル處米国人モ亦貴方同様彼等自身ニ於テ措置スト云ヘル旨ヲ答ヘタリ

尚其ノ際今後到着スヘキ一万有余ノ英兵ヲ如何ニ収容スルヤト問ヒタル處同人ハ競馬場及幾多ノ「ブリティッシュ、プロパチー」内ニ収容スヘシト答ヘ又各國共同防備以外ノ時ハ租界外ニ兵ヲ配置スル事無キ旨ヲ語リタルカ其ノ後新聞紙ノ報スル處ニ依レハ工部局ハ「ジェスフィールド」内ニ軍隊用「バラック」建設中ナリシ處公共ノ公園ヲ英兵收容ノ為ニ使用スルハ不都合ナリトノ反対モアリタルニヤ右工事ハ中止セラレタル由ナリ

之ヲ要スルニ英國ハ遂ニ租界外ニ兵力ヲ出ス方針ヲ一変シタル結果工部局モ亦計画ヲ樹テ直スノ已ムヲ得サルニ至リタルモノト觀察セラル

在支公使ヘ転電セリ

318 昭和2年2月3日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

米ニ転電シ在欧各大使ニ暗送アリタシ

在留邦人の保護に関する工部局側と打合せについて

上海 2月3日後発 本省 2月4日前着

第八八号（極秘）

工部局ノ「ヒルトン、ジョンソン」一日本官ヲ來訪シ工部局ニ於テハ万ノ場合ニハ租界外居住外国人ヲ租界内ニ引揚シムル為目下必要ノ準備計画ヲ樹テツツアル處日本人ニ付テハ如何ニスヘキヤ貴見ヲ承知シタシト述ヘタルニ付本官ハ何處ヲ以テ租界ノ内外トスルヤト尋ねタル處嚴格ナル意味ノ租界ニシテ所謂「ミニニシパルロード」ハ含マサル

319 昭和2年2月4日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

米国の上海中立提案には今暫らく静観方について

北京 2月4日後発 本省 2月4日後着

尚其ノ際今後到着スヘキ一万有余ノ英兵ヲ如何ニ収容スルヤト問ヒタル處同人ハ競馬場及幾多ノ「ブリティッシュ、プロパチー」内ニ収容スヘシト答ヘ又各國共同防備以外ノ時ハ租界外ニ兵ヲ配置スル事無キ旨ヲ語リタルカ其ノ後新聞紙ノ報スル處ニ依レハ工部局ハ「ジェスフィールド」内ニ軍隊用「バラック」建設中ナリシ處公共ノ公園ヲ英兵收容ノ為ニ使用スルハ不都合ナリトノ反対モアリタルニヤ右工事ハ中止セラレタル由ナリ

之ヲ要スルニ英國ハ遂ニ租界外ニ兵力ヲ出ス方針ヲ一変シタル結果工部局モ亦計画ヲ樹テ直スノ已ムヲ得サルニ至リタルモノト觀察セラル

在支公使ヘ転電セリ

識者間ニハ英國カ列国ト共通ノ利害関係アル問題ニ関シテ協調ヲ図ルコトナク出シ抜ケニ權利ヲ拠棄セムトスルハ他ノ列国ノ迷惑ヲ顧ミサル所置ナリトノ批評ヲナスマノアルヲ聞ケリト述ヘタルニ同大使ハ何等答フル所ナカリキ貴官ノ御含迄

318 昭和2年2月3日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

米ニ転電シ在欧各大使ニ暗送アリタシ

在留邦人の保護に関する工部局側と打合せについて

上海 2月3日後発 本省 2月4日前着

第八八号（極秘）

工部局ノ「ヒルトン、ジョンソン」一日本官ヲ來訪シ工部局ニ於テハ万ノ場合ニハ租界外居住外国人ヲ租界内ニ引揚シムル為目下必要ノ準備計画ヲ樹テツツアル處日本人ニ付テハ如何ニスヘキヤ貴見ヲ承知シタシト述ヘタルニ付本官ハ何處ヲ以テ租界ノ内外トスルヤト尋ねタル處嚴格ナル意味ノ租界ニシテ所謂「ミニニシパルロード」ハ含マサル

松平大使「ケロッグ」長官間談話ノ目的ハ其範囲未タ明確ナル域ニ達セサル感アルモ大体上海ニ於ケル中立地帶問題ヲ協議スルコトシ場合ニ依リ其他重要ナル時局問題ヲ商議セムトスルニ在ルモノノ如キ處中立地帶設置乃至治安維持ノ如キハ要スルニ地方的且一時的小問題ニシテ從来モ領事団ノ手ニテ適宜處理シタル例モ有之次第ナルカ故若シ商議ノ目的ノニシテ斯ノ如キモノナリトセハ今回モ亦從来ノ例ニ倣ヒ之ヲ處理スルコトシ差支ナカルヘシ然リ乍ラ若シ時局關係ノ重要問題ヲモ商議セムトスルモノナルニ於テハ今回ノ時局問題ハ非常ニ重要ナル發展ヲ為スノ可能性アルニ鑑ミ頗ル慎重ナル考慮ヲ要ス惟フニ広東北伐軍ノ揚

子江進出以来内乱ハ量ト質トニ於テ共ニ甚大ヲ加ヘタル矢先偶々漢口事件ノ発生トナリ英國ノ新提案トナリ出兵トナリ付加税問題ノ紛糾トナリ稅務司ノ免職トナリ而シテ今後如何ニ發展スヘキヤハ何人モ予断シ能ハサル處ナリ今ヤ塩稅収入ハ潤渴シ塩務稽核所ノ将来ハ非常ニ悲觀セラレ海關ニ就テモ其收入行政共ニ多大ノ懸念ナキ能ハス支那ニ対スル債権国トシテハ單ニ債権関係ニ就テ考察スルモ重大ノ時節到来シタルモノニテ要スルニ時局ノ發展ハ目下猶初期ニ在ルモノト言フヘク列国トシテハ今後幾多ノ波瀾アルヲ予期スルヲ要ス

(2) 時局ノ帰趨斯ノ如クナル上現在ニ於テハ英國ハ南北双方ト紛糾ヲ生シ如何ニ落着スヘキヤハ今後ノ發展ニ俟タサルヘカラス右ノ外茲ニ見逃スヘカラサルハ南方政府ノ背後ニ在ル労農側ノ活動ナリトス右ニ就テハ茲ニ叙説スル必要ナキモ要スルニ現下各國等シク内政不干渉ノ態度ヲ持スルニ拘ラス独リ労農露國ノミ最明白ニ且立入りタル内政干渉ヲ為シツツアルハ世間周知ノ事実ナリ加之最近英國出兵説ノ具体化スルニ及ンテ労農政府ハ北満國境ニ動員令ヲ發シタルモノノ如ク東方電ニ依レハ右ハ南方ト英軍トノ間ニ葛藤生

貴電第二五号ニ關シ

支那現下ノ事態ニ於テ(一)同國內ノ和平統一(二)外国ノ勢力カ支那ノ政局ヲ左右シ得ル可能性(三)列国ノ権利擁護(四)関稅會議(五)治外法權(六)通商條約改訂等ノ諸問題ニ対スル帝国政府ノ意見及政策ハ從来幾多ノ機会ニ於テ表示セラレタルノミニラス一月十八日本大臣ノ帝國議會ニ於ケル演説中及フ限リ明瞭ナラシメムコトヲ努メタル次第ニシテ貴官ニ於テモ予テ御熟知ノ通ナル处英国外相カ日本政府ニ問ハムトスル所ハ此等ノ一般政策ヨリモ寧ロ最近国民政府ノ活動殊ニ露国人ノ暗中飛躍ニ対スル具体的措置如何ノ問題ニ非サルカト察セラル然ルニ此ノ問題ニ付テモ本大臣ノ所見ハ右演説中ニ暗示シアリ即チ支那国民力到底永ク他國ノ干涉ヲ黙認シ其ノ指図ニ服従スルカ如キモノニ非サルコトヲ説キタル一節ハ国民政府カ今後露国人トノ特殊關係ヲ絶チテ換骨脱胎スルカ然ラサレハ国民ノ輿望ヲ失ヒテ自然ニ崩壊スルカテ現ニ近來国民政府内ニ於ケル「ボロヂン」等ノ勢力漸ク露骨トナルニ從ヒ支那国民ノ之ニ対スル反発性亦漸ク加ハルノ徵候ナキニ非ス何レニスルモ支那ノ時局ハ刻々変転

スル場合南方反対ノ張作霖ヲ遙ニ牽制セムトスルモノニシテ多分事實ナルヘシト存ス此等ノ事情ニ顧ミ現下ノ支那時局解決ヲ計ラムトセハ労農側ヲ考慮外ニ置ク能ハサル事實ハ最重要ナル要素ナリトス米國國務長官ノ所謂其ノ他ノ問題ニシテ支那一般時局ヲ含ムモノトセハ寧ロ第一ニ労農關係第二ニ英支其他ノ關係ヲ考慮セサルヘカラス斯ノ如ク現下ノ支那時局ナルモノハ其内容ニ於テ紛糾錯綜セルノミナラス時期ヨリ申セハ猶初期ニ屬シ従テ繫争当事者モ疲労困憊ニ至ラサルカ故大ナル用意ト決(脱マ)ナクシテ外部ヨリ手ヲ下スカ如キハ頗ル危險ナリト言ハサルヘカラス殊ニ列國ノ各本国ニ於ケル狀況ニ顧ミルモ未タ列国会議開催ノ機運熟シタリトハ申シ難ク旁今暫ク推移ヲ見テ内外ノ形勢相当熟スルヲ俟テ本問題ヲ考慮スル方得策ト思考ス

320 昭和2年2月4日 勅原外務大臣より
在英國松井大使宛(電報)

英國の对中国出兵に直に同調出来ない理由等

表明について

第三六号

本省 2月4日後發

(續) 大英ノ通ニシテ其際本覚書カ結局支那海關現制度ノ破壊ヲ來タスノ危険ヲ包藏スルコト並付加税ノ即時無条件許与カ国民政府ノ英國ニ対スル態度ヲ悪化セシムヘキコトヲ述ヘ置キタルカ不幸ニシテ其ノ憂惧ハ爾來悉ク実現スルニ至リタル次第ナリ

就テハ此際何等英国外相ニ対シ挨拶ノ必要アリト認メラルルニ於テハ以上ノ趣旨ヲ口頭ニテ可然様くハシタハ

編
注

『日本外交文書大正十五年第二卷ト卷』1011五文書

(事項八) 参照

321

昭和2年2月5日 在中国芳沢公使
幣原外務大臣宛(電報)

上海中立に關する米國の國政圖おもと抜圖

船内傳聞

別 聞

1月5日着在中国芳沢公使より幣原外務大臣宛

上海中立に關する米國公使より南北満洲軍宛通告文

北京 2月5日後發
本省 2月5日後着

第1811号(用意)

壞ヲ來タスノ危険ヲ包藏スルコト並付加税ノ即時無条件許与カ国民政府ノ英國ニ対スル態度ヲ悪化セシムヘキコトヲ述ヘ置キタルカ不幸ニシテ其ノ憂惧ハ爾來悉ク実現スルニ至リタル次第ナリ

上海、漢口へ転電セラ

米國公使ハ國務長官ノ命ニ依リ國民軍及安國軍司令ニ対シ上海問題ニ關シ別電ノ通り通告ヲ為ス答ナリトテ右通告文ヲ本使ニ内報シ越シタリ

尚右ハ七日公表ノ筈ナルカ夫レ迄ハ嚴秘ニ付セラシタシムノ事ナリ

Gaimudaijin, Tokio.
Urgent No. 184
⁽¹⁾ By direction of the Secretary of State of the United States, the American Minister has the honor to make the following communication:

The fate of the American interests in the international settlement during the course of the internecine warfare now unhappily in progress in China is the occasion of the great anxiety to the American Govern-

ment. As the result of the efforts of the two generations of foreigners and Chinese this area has acquired a foremost position among the great ports of the world. There are now living in the settlement nearly 4,000 Americans, and probably 30,000 foreigners altogether, who have made this settlement their homes.

⁽²⁾ The arrangement for this settlement is of long standing and made with the local authorities of China and recognized by the National Government. Huge sums have been invested by Chinese citizens and the citizens of foreign nations in municipal and harbor improvements, in buildings and in all the paraphernalia of international trade. The settlement is the vital center of commerce that ramifies throughout China and extends throughout the world.

To a supreme degree the interests of the Chinese people and of the people of foreign nations requires that here order shall prevail.

It is the port through which passes 40 per cent of

the trade in China upon which millions of Chinese depend for their livelihood.

⁽³⁾ From the earliest days the interests of all nations in the International settlement have prospered in times of peace and have suffered when there has been strife in the region surrounding Shanghai or in the country at large.

In order at least to minimize as much as possible injury to the persons and property of foreigners and Chinese living at this port it has been the uniform policy of the foreign residents of the International settlement and of their Governments to keep the settlement aloof from factional disturbances and as far as this could be accomplished rigorously to prevent it from being utilized by any faction.

⁽⁴⁾ The cooperation of the authorities in control of Kiangsu Province in carrying out this policy has been asked and received, and it has been remarkably successful.

In recalling these facts to the Chinese military commanders the American Government is confident that they will lend their sincere support to the proposal now made that the international settlement at Shanghai be excluded from the area of armed conflict so that American citizens and other foreigners may receive adequate protection. The American Government will be ready for its part to become a party to a friendly and orderly negotiations properly instituted and conducted regarding the future status of the settlement.

322 昭和2年2月5日 在米国松平大使宛（電報）

上海中立化案に関する國務省極東部長との会談

諒止ハシテ

コシシムトヘ 2月5日後発
本 省 2月6日後着

第四四号

五日極東部長ヲ往訪シ往電第三九号「マクマレー」宛訓令

ル事ヲ日本政府ハ心配セル模様ニ付現状ニ於ケル日本公使ノ感想電報方電訓ニ接シタルカ米国公使ニ尋ねタル處同公使ハ現在斯ノ如キ危険無シトノ事ナルカ本使ノ意見如何ト尋ねタルニ付現在ニ於テハ斯ノ如キ事ヲ思ヒ付カスト答へ置キタリ右ニ対シ何等御心当リノ次第アラハ御電示ヲ請フ

324 昭和2年2月7日 在米国松平大使より
幣原外務大臣宛（電報）

國務省の上海中立提案公表について

ワシントン 2月7日後発
本 省 2月8日後着

第四六号

六日國務省ハ四日「マクマレー」及現地米国領事ヨリ夫々張作霖張宗昌及蔣介石ニ対シ上海治安ニ関スル通告ヲ手交セル旨並ニ該通告全文ヲ公表セリ該通告ハ支那内乱ノ共同

租界ニ於ケル米国ノ利益ニ及ホス結果ニ付危惧ニ堪ヘサルコト共同租界ニ関スル協調ハ支那政府ノ承認セルモノニシテ同地ニハ現ニ四千ノ米人及約三万ノ外国人居住シ支那國民ト共ニ巨額ノ投資ヲ行ヒ居リ數十年來ノ努力ニ依リ今ヤ同地ハ支那内外商業ノ中心ヲ為スニ至レル事及居住外国人

323 昭和2年2月7日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

英國の上海出兵の他地方在留日本人に及ぼす影響につき英國公使問合せについて
北京 2月7日後発
本省 2月8日前着

第一九三号

二月六日英國公使來訪本國政府ヨリ英國カ上海ニ軍隊ヲ送ルカ為其ノ他ノ地方ニ於ケル日本米人カ危險ニ瀕スルノ虞ア

一件其後ノ成行ヲ尋ねタルニ同部長ハ「マ」モリハ未タ電報ナキモ「マーピー」通信ニ依レハ「マ」ハ張作霖ト会談セル由ニテ或ハ本件ニ就キ談シタルモノカトモ思ハルト述べタルニ依リ本使ハ右ハ單ニ張ノ意向ヲ探リタル次第ナルヤ夫レトモ張作霖側及南方ニ対シ既ニ本件通告ヲ發セラレタル意味ナルヘキヤト尋ねタル處部長ハ本件ハ「マ」ノ意見モアルヘキニ付如何ニ取扱ヒ居ルヤ未タ判明セストテ稍々曖昧ニシ居リ本件実行ニ關シテハ「マクマレー」ノ裁量ニ委セ居ルモノノ如ク感セラレタリ
英ニ転電シ仏ニ暗送セシム

英ニ転電シ仏ニ暗送セシム

第九四号

325 昭和2年2月(8)日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

米国の上海中立化案に対する陳友仁の談話について
漢口 漢口 2月8日後着

英ニ転電シ仏ニ郵送セシム

文ハ昨六日当地米國總領事ヨリ手交セラレタルカ右ハ蔣介石及張作霖ニ対スル同時通告ノ形式ヲ採リ之ヲ當地ニ於ケル蔣ノ代表者トシテノ自分ニ取次方ヲ求メタルニ過キス（約要ハ公使發既電ノ通）国民政府ハ蔣ニ限ラス何人ノ政府ニモアラス又外部ニ対シテハ自分カ之ヲ代表スルコトハ米國トシテモ熟知スル處ナルヘキニ拘ラスル形式ヲ選ヒシコトハ自分ノ快シトセサル處ナリ又上海共同租界ニ於ケル米国人其他外國人ノ生命財産保護云々ハ甚タ結構ナル名義ナルモ実ハ上海ヲ中立地帶ニセントスルニ外ナラス国民政府ハ上海ヲ其權下ニ收ムル時ハ之ヲ保護スルニ足ル充分ノ實力ト誠意ヲ有ス何カ故独立セル支那國家ノ内ニ外國力中立地帶ヲ設ケントスルヤ又上海ノ「ステータス」ニ關シテハ云々ノ件ニ付テハ既ニ国民政府カナセル承認ヲ裏書シテル迄ニシテ其機嫌ヲ執ラントスルニ過キス此点亦自分ノ不快ニ堪ヘサル處ナリ米國總領事ニモ此旨私見トシテ述ヘタルカ併シ米國ノ此種ノ「ミスチーフ」ハ今日ニ始マリシコトニ非ス且國民軍トシテハ米國ノ如キ強國ヲ「インサルト」スルノ意思ナク右通告文ニ対シテハ暫ク其儘ニ放任スル考ナリ英國カ或ハ此背後ニアルヤモ計リ難ク依テ本日

政府ハ上海ヲ其權下ニ收ムル時ハ之ヲ保護スルニ足ル充分ノ實力ト誠意ヲ有ス何カ故独立セル支那國家ノ内ニ外國力中立地帶ヲ設ケントスルヤ又上海ノ「ステータス」ニ關シテハ云々ノ件ニ付テハ既ニ国民政府カナセル承認ヲ裏書シテル迄ニシテ其機嫌ヲ執ラントスルニ過キス此点亦自分ノ不快ニ堪ヘサル處ナリ米國總領事ニモ此旨私見トシテ述ヘタルカ併シ米國ノ此種ノ「ミスチーフ」ハ今日ニ始マリシコトニ非ス且國民軍トシテハ米國ノ如キ強國ヲ「インサルト」スルノ意思ナク右通告文ニ対シテハ暫ク其儘ニ放任スル考ナリ英國カ或ハ此背後ニアルヤモ計リ難ク依テ本日

シコトハ自分ノ快シトセサル處ナリ又上海共同租界ニ於ケル米国人其他外國人ノ生命財産保護云々ハ甚タ結構ナル名義ナルモ実ハ上海ヲ中立地帶ニセントスルニ外ナラス国民政府ハ上海ヲ其權下ニ收ムル時ハ之ヲ保護スルニ足ル充分ノ實力ト誠意ヲ有ス何カ故独立セル支那國家ノ内ニ外國力中立地帶ヲ設ケントスルヤ又上海ノ「ステータス」ニ關シテハ云々ノ件ニ付テハ既ニ国民政府カナセル承認ヲ裏書シテル迄ニシテ其機嫌ヲ執ラントスルニ過キス此点亦自分ノ不快ニ堪ヘサル處ナリ米國總領事ニモ此旨私見トシテ述ヘタルカ併シ米國ノ此種ノ「ミスチーフ」ハ今日ニ始マリシコトニ非ス且國民軍トシテハ米國ノ如キ強國ヲ「インサルト」スルノ意思ナク右通告文ニ対シテハ暫ク其儘ニ放任スル考ナリ英國カ或ハ此背後ニアルヤモ計リ難ク依テ本日

「オメリ」ニ対シテモ一通り前記ノ次第ヲ語リ今次ノ通告文ハ米國カ要ラヌ喙ヲ容ルモノナルコトヲ話シ置ケリ云々

在支公使、上海、廣東へ転電シ奉天、天津、濟南、南京へ暗送セリ

326 昭和2年2月10日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

米国の上海中立提案に反対との孫伝芳の申し出について

上海 2月10日後発 本省 2月10日後着

第九五号 往電第九二号ニ関シ

孫伝芳ハ本日岡村中佐ヲ通シ上海ノ中立問題ニ關スル米國ノ提案ニ対シテハ絶対ニ反対ナル旨並ニ本件ニ關シテハ何等通知ナキ旨本官ニ伝達方依頼シタル趣ナリ在支公使、奉天、天津、濟南へ転電シ南京、廣東、漢口へ暗送セリ

327 昭和2年2月10日 在米國松平大使宛（電報）

米国の上海中立案に対する中國側の反応について
第七二号 本省 2月10日後発

米國ノ上海中立案ニ關シ曩ニ陳友仁ハ在漢口高尾總領事ニ對シ自分等ハ決シテ上海租界ヲ強力奪取スルカ如キ考ナキニ拘ラス米國ニ限ラス何國ト雖上海中立問題ノ提議ヲ為スモノアラハ國民政府ハ之ヲ内政干渉ト看做スヲ得ヘキカト述ヘタルコトアル処二月七日陳ハ在漢口總領事館員ニ對シ六日同地米國總領事ヨリ本件覺書ヲ接手シタルカ右覺書中米国人其他外國人ノ生命財產保護トアルハ實ハ上海ヲ中立地帶セムトスルニ他ナラス國民政府ハ上海ヲ其ノ權下ニ

取ムル時ハ之ヲ保護スルニ足ル充分ノ實力ト誠意トヲ有ス

ルヲ以テ中立地帶設置ハ承認スルコトヲ得サル次第ナルニ付右ノ趣旨ヲ米國總領事並「オメリ」ニモ私見トシテ話シ置キタル旨ヲ語リタルカ尚右會談ニ際シ陳ハ米國今回ノ如キ強國ヲ「インサルト」スルノ意思ナク旁本覺書ニ對

いて

本省 2月10日後発

328 昭和2年2月10日 在英國松井大使宛（電報）

英國の出兵に反対する中國各方面の状況について

本省 2月10日後発

（一）北京ニ於テハ言論界ハ或ハ英國ノ措置ヲ愚策ナリトシ日米カ之ニ倣ハサリシヲ多トスルモノアリ或ハ今次ノ漢口及シ

九江事件カ団匪事件ト異リ国家ノ合理的主権ヲ力爭スル運動ノ一表現タルニ拘ハラス英國カ之ヲ了解セシテ其ノノ置ヲ誤レルヲ非難シ或ハ又英國カ一方日米仏伊諸国ヲ勧誘シテ共同出兵ヲ策シ乍ラ他方法權税權及租界等ノ返還ヲ表明シテ支那ニ好意ヲ示シタル矛盾セル行動ノ裏面ニハ恐ル可キ豺狼ノ政策ヲ藏スルモノナリト為ス等挙ツテ出兵ニ反対ノ言説ヲ掲ケタリ

尚北京外交部ハ一月三十一日在支英國公使ニ宛テ英國ノ出兵ハ〔華府會議九国條約ニ於ケル支那ノ主権尊重ニ関スル規定並在支軍隊撤退ニ關スル決議及〕〔國際連盟規約第十条ノ規定ノ精神ニ背反スルコトヲ指摘シ在支英國人ノ生命財産ニ対シテハ支那政府ハ常ニ充分ノ保護ヲ加ヘツツアルニ拘ハラス支那側ノ同意無クシテ陸海軍ヲ送レルハ尋常ノ行動ヲ逸脱セル措置ニシテ其ノ結果意外ノ紛糾ヲ發生スルコトアルモ支那政府ハ何等責任ヲ負ハサル旨ノ抗議書ヲ送リ

〔上海方面ニ於テモ江蘇全省教育会外三四ノ団体ハ直チニ出兵ニ反対シ友邦各国ノ諒解ヲ求ムル旨ノ宣言ヲ発シ又上

海学生連合会ハ英國自由労働両党ノ本部ニ宛テ支那民衆ハ

不平等条約ノ取消ヲ希望シ英國ノ武力政策ニ反対スルモノナルヲ以テ在支英國陸海軍ヲ即時全部撤退シ英支間一切ノ不平等条約ヲ取消ス可キコトヲ要求セル六箇条ヲ挙ケ英國リシ處一月二十四日ノ頃上海英字新聞カ頻リニ孫軍敗戦ノ虚報ヲ事実ランク掲載シタルコトアリ右ハ英國側ニ於テ

今回ノ出兵ニ理由ヲ付スル為メ故ラニ國民軍側ノ宣伝ヲ利

用シタルモノノ如クナルカ孫ハ右宣伝ニ依リ無形ノ損失ヲ与ヘラレタリト為シテ英國側ノ仕打ヲ憤慨シ二十九日在支

各國公使館領事館ヲ初メ各軍民長官各法團及新聞社ニ宛テ

英國カ出兵ニ決シ世間ノ誤解ヲ惹起スルニ至レルハ文明先進国ノ態度トシテ諒解シ難キ所ニシテ支那ノ主権ヲ侵害シ徒ラニ人民ノ危惧心ヲ挑發スルモノナルヲ以テ交渉員ヲシテ上海英國總領事ニ嚴重抗議セシムルト共ニ北京政府ニモ

對英抗議方電請セル旨ノ通電ヲ發シタリ尚孫トシテハ事外國ノ武力干涉ニ關スル限り國民軍側ト握手シテ迄モ之ニ抗争スルノ底意アルモノノ如シ

〔国民軍幹部ニ在リテハ陳友仁等ハ予テヨリ高尾総領事ニ

セシメサランカ為ニハ國民政府ニ於テ上陸ヲ必要トセサル事ヲ立証セサルヘカラス從テ適當ナル保証ヲ為ササル以上上陸ハ實現スヘシト申送リ置キタリ英國政府ハ自分ノ裁量ニ一任シタルヲ以テ右ノ通取計ヒタル次第ナルカ多分一部分ハ香港ニ残シ一部分ハ上海ニ上陸セシムル事トナルヘシト語リタリ

上海、漢口へ転電セリ
米ニ転電シ在欧各大使ニ暗送アリタシ

329 昭和2年2月11日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

陳友仁より英國軍隊の上海上陸見合せ方申
出に関する英國公使の談話について

北京 2月11日後
本省 2月11日後着

第二〇五号（極秘）
往電第一九八号ニ関シ

第三八号

330 昭和2年2月11日 在南京森岡領事より
幣原外務大臣宛（電報）

米国の上海中立提議は市外一定区域を含むとの情報について

南京 2月11日後
本省 2月12日前着

本官發在上海總領事宛電報第三三号

十日英國公使ノ談ニ依レハ陳友仁ヨリ煩ニ英國軍隊ノ上海上陸見合セ方請求シ來レルモ自分ハ英國軍隊ノ上海上陸ヲ必要ナラシメタル責任ハ國民政府ニアルカ故右上陸ヲ實現

孫伝芳ヨリ今回岡村顧問ヲ介シ貴官ニ伝言シタル上海中立ニ關スル米國ノ提議ニ對スル孫伝芳ノ反対態度ノ件ニ就キ現ニ貴官カ接受セラレ居ル本件情報中ニハ孫ノ談話ニカカル市外五哩ヲ中立区域トスル根拠不明ナル趣ノ处本月七日

発行読売新聞第三頁ニ北京五日發電通電報トシテ米國ハ北京外交部漢口国民政府外交總長ニ対シ上海市外五哩ヲ中立区域トシ両軍戰闘行為ヲ執ラサル様提議シタリトノ記事ヲ掲ケ居リ又本日貴地發行支那新聞ニ本件提議ニ対シ張作霖ハ市外百清里以内ヲ中立地帶ト定ムルニアラサレハ實際上効果ナカルヘキ旨ヲ米國公使ニ申出テタリトノ記事アリ右ノ次第ニ市外一定区域ヲ中立地帶ト定ムル件ハ米國ノ提案中ニ含マレ居ルニアラスヤト察セラルニ付御参考トシテ電報ス

大臣、公使へ転電セリ

331 昭和2年2月(19)日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英國の上海出兵問題に関する交渉経緯について

陳友仁内話について

漢口	発
本省	2月13日後着

(1) 第一〇一号(極秘)
二月十二日本官別用ヲ以テ陳友仁ヲ訪問ノ節英支問題ニ関シ陳ノ極秘トシテ内話スル處ニ拠レハ革命軍カ上海共同租

(2) 既ニ上海ニ上陸セル印度兵ハ共同租界内ニ留メ置キ「グレイト、エマージェンシー」ヲシテ即チ上海港外ニ於テ戦争勃発スル等ノ場合絶對的必要アルニアラサレハ之ヲ動カササルコト

(3) 印度ヨリ派遣セル一隊約四千名ノ陸兵ハ既ニ上海上陸中ナル可キモ英國及地中海方面ヨリ輸送中ノ二隊約八千名ノ兵ハ香港ニ陸揚シ同地ニ留メテ上海迄送ラサルコト

ノ三点ナリ右ハ甚々長文ナル文書ナルヲ以テ慎重考慮ノ結果ニアラサレハ之ニ対スル贊否ヲ表シ難ク且事軍事ニ関スルヲ以テ万事ノ交渉ハ自分ニ一任セラレタリト雖一通ハ其ノ方面ノ意見モ微セサル可カラス然リト雖万一右英國側ノ保障ニ一先ツ信賴シ漢口英租界事件ニ關スル協定ニ「サン」スルコトアリトスルモノナル旨ヲ国民政府ノ名ニ於テ声明センカトモ考へ居レリト云ヘリ之ヲ要スルニ当地ニ於ケル英支交渉ノ現状ハ双方共ニ相犯ササル保障ノ交換ヲ以テ先ツ無事ニ落着スヘキモノト觀測セラル

北京、上海、廣東ニ転電セリ

332 昭和2年2月(19)日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英國の上海中立化案は無視するとの陳友仁の談話について

漢口	発
本省	2月13日後着

第一〇二号

米國通告文ニ関シ二月十二日陳友仁カ本官ニ余談トシテ洩ラセル談話ノ要領左ノ通

該通告文ハ蔣介石ヨリ自分ニ回付セラレタルカ米國ノ提議ハ結局上海ヲ中立地帶トナサントスルモノニシテ若シ之カ実現セラレタルト仮定センカ商工業經濟上ノミナラス軍事的ニ長江流域一帯ヲ扼スル同地ノ守備ニ対シ孫伝芳ハ之ヲ侵略セラレサルノ保障ヲ与ヘラルト同様ノ恩典ニ浴シ從テ同地ノ守備ニ要スヘキ多數ノ兵力ハ他方面ノ戰線ニ移送セラレ得ヘク之ハ米國カ欲スルト否トニ拘ハラス孫ノ利益ノ為ニスル軍事干涉トナルヘク上海ヲ自己ノ「ジュリストクション」ニ收メントスル国民政府ノ目的ヨリ見レハ断シテ同意シ得サル提案ナリ依テ自分ハ蔣介石ノ命ニ依テ右ハ

「イグノア」スル考へニシテ当地米國總領事ヨリ其後意見
いて

ヲ徵シ來リシモ該通告文ハ国民政府ヲ外部ニ對シ代表スル

自分ニ正当ニ宛テラレタルモノニアラサレハ国民政府トシ

テハ何等回答セサルヘキモ声明書ノ形式ニ依リテ国民政府

ヨリ見テ如何ニ此提案カ stupid ナルヤヲ指摘公表スル考

ヘナリト答へ置キタリ米国外交ノ失態ハ單ニ之ノミニ止マ

ラス上海ノ安全ニ關シ同方面ノ一方ノ責任者タル孫伝芳ニ

対スル通告ヲ蔣介石及ヒ張作霖ニ對スルモノヨリ數日遲レ

テナシタル点全ク啞然タルモノアリ然シ今次ノ通告文ノ及

ホセル惡影響ニ關シテハ當地居住外国人モ凡テ自分等同様

ノ感想ヲ懷キ居レリト

尚右ト同様ノ趣旨ヲ以テセラレタル揶揄の批評ハ本十二日

ノ「ヘラルド」ニ掲載セラレタルカ陳ノ内話スル處ニ依レ

ハ右ハ米国人タル同新聞記者カ自分ノ意見ヲ徵シタルニ付

率直ニ申述ヘタル處其儘掲載セラレタルモノナリト言ヘリ

北京、上海、廣東、南京ヘ転電セリ

333 昭和2年2月14日

在南京森岡領事より

幣原外務大臣宛(電報)

米国の上海中立案に対する孫伝芳の意向につ

公使、上海、漢口、廣東ニ転電セリ

334 昭和2年2月15日

幣原外務大臣より

在中國芳沢公使宛

英國の上海出兵に関する在本邦汪中国公使宛

北京外交部電報について

亞一機密第四六号

昭和二年二月十五日

(欄外記入) 昭和二年二月五日汪公使持參

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉殿

英國出兵ニ關スル在本邦支那公使宛

外交部來電写送付

英國ノ對支派兵ニ關シ英國外務省及英國公使ハ英國在留民

及上海租界保護ノ為ナリト称スルモ中國政府ハ之ヲ以テ事

前ニ同意ヲ求メサル尋常ヲ超越セル行動トナシ華府會議ニ

ヲ以テ写提出ノ次第アリタルニ付右写並訛文何等御参考迄

送付ス

(別紙)

鈔送外交部來電

第四〇号

上海発閣下宛電報第九五号ニ関シ

(三二六文書)

南京 2月14日後發
本省 2月15日前着

岡村孫ノ伝言ヲ齎シ上海ニ出張後在当地米國總領事ハ孫伝芳ヲ訪問シ上海中立提議ニ關シ過日米國カ張作霖及蔣介石ニ交付セル正式通告文ト同一意味合ノ非公式覺書ヲ手交シタルカ孫ハ右覺書カ張蔣兩人宛ノモノト性質ヲ異ニシ純然タル非公式ノモノナルニ依リ何等ノ回答ヲ為ササルコトトシ單ニ上海ニ於テハ孫自ラ一切ノ生命財産保護ノ責ニ任スヘク特ニ中立地域ヲ確定スル必要ヲ認メサル旨三四日前上海發行英字新聞ニ寄書セル趣ナリ

尤モ劉宗紀ノ談ニ依レハ米國覺書ノ中ニハ單ニ上海市ヲ中立區域ト定ムトアリテ市外一定區域ヲ中立地ニ編入スルノ文句ナク又米國ハ正式通告文ヲ張作霖及蔣介石ニ送リ其後數日ヲ經テ非公式覺書ヲ北京外交部及孫傳芳ニ渡シタルモノナリト言フ猶孫傳芳ノ意見ハ米國ノ提議ハ要スルニ一種ノ内政干渉ニ屬シ承認ノ限りニアラスト言フニ在リ

クヘク仮令上海租界防衛ノ為トナスモ同地ハ何等危険ナク
中國軍隊並三警察ハ確実ニ治安ノ維持ニ任セルヲ以テ俄ニ
外國兵ヲ増加スルハ却テ紛糾ヲ増加スヘク中国政府ハ之ニ
対シ責任ヲ負フ能ハス

335 昭和2年2月17日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛

上海における英國出兵反対運動について

公信第一三八号 (2月24日接受)

昭和二年二月十七日

在上海 矢田 七太郎 (印)
(2月24日接受)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

上海地方ニ於ケル英國派兵ニ対スル反対運動

動ニ関シ報告ノ件

本件ニ閑シテハ屢次既電ノ通リ單ニ国民党側ニ於テノミナ
ラス孫伝芳側ニ於テモ反対の態度ヲ表明シ居レル處十六日
支那紙ノ消息ニ依レハ最近孫ハ英國兵ノ來滬上陸ハ國家ノ
体面維持上黙過シ難シトナシ許交渉員ニ英國領事宛抗議方
訓令スル一方顧外交總長ヘモ其撤退方を支英國公使ニ要求

本信写送付先 北京、漢口、天津、奉天、廣東、南京

336 昭和2年2月21日 在上海矢田總領事より

幣原外務大臣宛 (電報)

上海英兵の兵力および排英運動の彈圧に関する英総領事談話について

付記 二月二十一日

在本邦英國大使館ヘタソン一等書記官の在上海

英國兵力に関する陳述

上海 2月21日後発
本省 2月22日前着

(付記)

昭和2年2月二十一日記

曩ニ到着セル「パンジャブ」兵ニ対シ排英ヲ煽動スルモノ

アル為同兵ハ何レ引揚ノコトトナルヘシトノ間込アリタル
處二十一日英國總領事ハ印度兵ノ一部隊ハ近ク香港ニ返ス

答ナリト語リタルニ付然ラハ貴国兵力幾何ニナルヤト問ヒ

タルニ本月一杯ニ集合スルハ英兵五ヶ大隊印度兵二ヶ大
隊並砲兵等若干ノ補助隊ニシテ右ハ當方面派兵計画ニシテ

漸次來着シツツアル全數ノ二分ノ一弱ニ当ルト答ヘ又「ダ
ンジュ」將軍ハ二月二十七日着滬ノ予定ナリト言ヘリ

猶同總領事ハ本官ノ問ニ対シ漢口交渉ノ解決ハ局面ニ左シ

セラレ度旨要請セル趣ナルカ更ニ十七日所報ニ依レハ上海
銀行公会、上海県商公会、江蘇教育会等有力団体ハ連名ヲ以
テ英國政府及在支同國公使ニ宛テ
「英國政府ハ最近邦交改善ニ就キ提案スル處アリタル一方
大兵ヲ派遣シ居レルカ其真意奈シアルヤ知ルヘカラス中
國ハ目下革命運動ニ熱中シ居ル折柄局部的紛糾ノ起ルハ勢
ノ免レサル處ナリ然ルニ當局ハニ切実ニ外國居留民ノ保
護ニ任スヘキ旨声明シ居リ他方未タ外人ノ危害ヲ加ヘラレ
タル者ナキニ顧ミ此際英國カ大兵ヲ派遣スヘキ必要ハ絶エ
テ無キナリ斯ク英國カ中国政府ノ意思ヲ無視シテ統々派兵
挑戦的態度ヲ採ルニ於テハ國際公法ニ違反ヲ敢テスルモノ
ニシテ吾人ハ此際英國カ速ニ其ノ非ヲ悟リ撤兵シ以テ衝突
ヲ未然ニ防キ他方中國ニ対スル友情ヲ具体的ニ表示セラレ
ンコトヲ切望ススケテ両國ノ邦交ハ親善トナリ万事ハ速ニ
回復シ不平等互恵ノ關係發生ノ所以タルヘシ」

トノ電報ヲ發シタル趣ナル處此外工商會學生連合會等ノ反
対アリ本件反対空氣ハ官民ヲ通シ日ヲ追フテ漸次濃厚タラ
ントシツツアリ
右報告ス

四、英人義勇隊

八〇〇

上海在住者

五、「ヨークシャ」隊 一、〇〇〇

二十一日ニハ上海ニ着シタルヤ否ヤ明カララス

合計

八、四〇〇

尚上海ノ事態ニヨリテハ香港ヨリ更ニ一個旅団ヲ増派上陸セシムル見込ナリト

337 昭和2年2月21日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

上海今次の罷業の性格成果等について

上海 2月21日後発
本省 2月22日前着

第一三〇号(至急)

往電第一二九号ニ関シ

今回ノ罷業ハ先般來幹部ニ於テ支那官憲ノ為彈圧セラレ実現セサリシ計画ヲ孫伝芳軍大敗ノ報ニ接シ上海軍憲逃腰トナリタル機会ヲ捕へ予テ用意シタル組織ニ対シ命令一下其実力ヲ試験シタルモノナルハ煽動者自ラ罷業ノ目的カ政治的ニシテ工人ノ威力ヲ示スニアリト声明スル處ニ依リテ明

人銀行公会モ右学生ノ要求ヲ受ケ會議ヲ開キタルカ時期尚早ノ理由ヲ以テ罷市ヲ否決セル由ナリ

如上ノ状況ナレハ一時的ニハ支那軍憲ノ武力政策ハ有効ナルヘキモ若シ孫伝芳松江ニ敗レ南軍上海ヲ占領センカ其反動的騒擾ハ更ニ甚タシキモノアルヘシト憂慮セラル
在支公使、漢口、南京、杭州、蕪湖、九江、奉天、天津、青島、濟南、福州、廣東へ転電セリ

(在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報))

338 昭和2年2月22日

総工会の罷業継続決議、官憲の弾圧等について

上海 2月22日後発
本省 2月22日後着

第一三三号(至急)

(三七文書)
往電第一三〇号ニ關シ

一、総工会ハ二十一日午後會議ヲ開キ罷工ヲ継続スヘキヤ否ヤヲ討議シ結局継続ノコトニ決シ又今二十二日ヨリ四百ノ便衣隊ヲ使用シ各商家ニ罷市ヲ強要シ若シ必要アレ

ハ直接行動ヲ執ルコトトナレリト言フ

白ナリ然ルニ過去二日間ノ状況ヲ見レハ所在秘密ナル總工會若ハ海員公会本部ヨリ無責任ナル通告一本ニテ數万ノ工人ヲ罷業セシメ得タルハ意外ノ成功ニシテ小手調トシテハ十二分ノ勝利ナリト云フヲ得ヘシ而シテ一般ニ突發事件起

ラサル限り明二十二日ヨリ漸次復業ノ見込ナリシモ昨日來李寶章及劉警察廳長ノ極端ナル彈圧手段ハ(既ニ多數煽動者ヲ捕ヘテ斬罪ニ処セリ)効ヲ奏シテ支那街内ハ平穏トナリ豊田紡績ノ如キ二十一日朝ハ出勤率多キニ過キ已ムヲ得ス過剩ノ分ハ断リ帰ラシメタル程ニテ日華經營ノ喜和紡績モ同日朝六割ノ入場者アリテ操業ヲ開始セル由ナルカ他方學生煽動者等ヲ驅リテ復仇的ニ「デスペレート」トナラシタルハ争フ可カラス現ニ本日アタリ總工会ハ命令ヲ変更シ李、劉両名等ヲ上海ヨリ放逐スル迄ハ罷工ハ継続ヲ命ス可シトノ風評起リツツアリ又二十一日朝本官ニ電話ヲ以テ学生團ノ代表只今總商會ニ赴キ幹部ニ對シ罷市ヲ迫リ居レリト伝フルモノアリタルニ付折柄來訪中ノ英國總領事ト相談ノ上同總領事直ニ「ヒルトン、ジョンソン」ヲ呼出しシ適当ノ措置ヲ執ル可キ旨注意シタルカ其後聞ク處ニ依レハ右学生等ハ工部局警察官ノ手ニ取押ヘラレタル由ナリ又支那

二、漢口ニ於テ活躍中ナリシ李立三当地騒乱ノ為二十一日來滬セリトノコトナルカ真偽未タ確カナラス
三、郵船「ウエーブド」及「ポートンワーフ」異状ナク又商船及満鉄碼頭苦力今朝ヨリ復業セリ
四、支那官憲ノ煽動者取締愈々峻烈ヲ極メ二十日商務印書館印刷工場ヲ包囲逮捕シタル罷工委員十一名ハ二十一日死刑ニ処セラレ其首ヲ商務印書館付近ノ電線三吊ルシリ此種禁令違反者ニシテ惨殺セラレタルモノ既ニ九十名ニ及フト伝ヘラレ前記ノ外慘害、梶首等支那街ノ諸所ニ見受ケラル

五、共同租界ニ於テ逮捕セラレタル煽動者二十余名臨時法院ニ廻付セラレ支那軍憲ヨリ其ノ引渡要求アリタルモ法院ハ事件(脱)ヲ無期延期セリ
六、罷工資金ハ赤露側ヨリ總工会ニ供給サレ其ノ額ハ不明ナルモ十日間煽動員ノ活動ヲ支ヘルニ足ルトノ聞込アリ
七、共產黨ニ於テハ租界内外ヲ通シテ漢口同様擾亂惹起ノ意見ニテ總工会之ヲ支持シ居ルモ国民党ニ於テハ極力之ニ反対シ居ル由ナリ

八、鐘紡第二ノ一部、日華第一及二全部、東華第二及三、

六割方今朝復業シ大日本及東洋ハ今晚復業ノ見込アリ

九、支那新聞中時事新報ノ外申新報及中華日報モ今朝發行
配達セラレタリ

北京、漢口、南京、杭州、蕪湖、九江、奉天、天津、青島、
濟南、福州、廣東へ転電セリ

二付陸戦隊ヲ上陸シタル旨利根ニ通知アリ
三、閘北ノ警察署ハ便衣隊ニ襲ハレ武器ヲ掠奪セラレタリ
ト云フ

四、工部局ハ右形勢ニ鑑ミ共同租界ノ境界線上ニ敷設セル
鉄条網ノ各入口ヲ閉鎖シテ万一二備ヘ又英兵指揮官ハ散
歩ニ出テ居ル將卒ノ非常召集ヲ行ヒツツアリト

五、之ヨリ先江南機器局方面銃砲声ニ驚キタルモノカ（同
方面ヨリ砲弾二発同文書院付近ヲ飛過シ又機関銃ノ音ニ
十分間位ニ瓦リ聞エタリト云フ）李カ寢返リシタルニ非
スヤトノ噂頻リニ伝ハリタル處右ハ單ナル臆測ニ過キサ
ルヘシト思考セルモ為念「ヒルトン、ジョンソン」ニ問
合セタルニ李ヨリ今少シ前（九時頃）警備ニ闘シ打合ノ
為使者ヲ遣ハシ来リタル位ナレハ右様ノ事無シトテ之ヲ
否認セリ

北京、漢口、南京、杭州、蕪湖、九江、奉天、天津、青島、
濟南、福州、廣東へ転電セリ

いて

上海 本省 2月23日前着 発

第一三九号

一、今夕七時頃密偵ヨリ武器ヲ携帶セル革命軍ノ便衣隊數
百名閘北ノ北停車場及江南機器局付近ノ南停車場方面ニ
向ケ集中中トノ報告アリタルカ同九時頃機器局方面ニ當
リ銃砲聲聞エタリ右ハ同方面ニ集合セル一隊カ武器掠奪
ノ目的ヲ以テ機器局ヲ襲ヒ李防守司令ノ軍ト衝突シタル
モノト思ハル

二、仏國旗艦ヨリ午後八時頃仏租界ニ銃弾十二発飛來セル

340 昭和2年2月23日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

総工会の罷市計画失敗とその他の計画に関する

る情報について

上海 本省 2月23日後発 発

第一四二号

第一四四号
(三四〇文書)
往電第一四二号ニ閔シ

総工会ハ罷市強要ノ筈ナリシモ總商會及各路商會連合会之
ニ應セス又国民党セ共產派ニ屬スルモノハ之ニ賛成スルモ
大体ハ今罷市ヲ強要スルハ犠牲者ヲ多ク出スノミニシテ益
ナク且罷市罷工ハ強要セストモ必ス起ルヘキ時機何レ到来
スヘキニ付此際ハ中止スヘシトノ意見ニテ反対アリタル為
総工会ノ罷市計画ハ失敗ニ終レル趣一方總工会ハ二十二日
午後會議ヲ開キ第二計画トシテ放火実行隊ヲ組織シ日時ヲ
期シテ租界内外ノ空家ニ一齊ニ放火シテ人心ヲ動搖セシム
ルコトヲ決議セリトノ聞込アリ又別ニ共產党ハ四百名ノ暴
力團ヲ組織シ租界内外ニ積極的活動ヲ開始ストノ報モアル
処現下ノ情勢ニ鑑ミ右ノ如キ「デスペレート」ナル行動モ
絶無ヲ期シ難シト觀察セラル

北京、漢口、南京へ転電セリ

342 昭和2年2月25日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

工部局の各国陸戦隊上陸要求に対する米國總

領事の意向について

付記 上海時局ト各国警備狀態（亞細亞局第二課 二

月二十五日調）

341 昭和2年2月24日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

本省 2月25日後着 發

第一五五号

往電第一五〇号ニ関シ

二十四日六国總領事會議終ルヤ英國總領事ハ首席領事ニ対シ市參事會議長ヨリ時局ニ關シ何等申出ナカリシヤト質問置キタシトノ談アリタルノミナリトノ答ヲ得ルヤ本官ニ向ヒ北四川路方面ニ居住スル外國人中ニハ甚シク不安ヲ感シ居ルモノモアリ最早陸戰隊ヲ上ケ防備線ヲ張ルヘキ時機來レリト説キ本官ノ確答ヲ俟タス倉皇出テ行キシカ本官ハ帰途米國總領事ヲ拉シテ自動車ニ同乗シ自分ハ未タ其時機ニアラスト考フルカ貴見如何ト問ヘルニ英國人ハ騒キ居ルモ自分モ尚早論ナリ今「バートン」ノ飛出シ行ケルハ市參事會議長カ首席領事ニ陸戰隊上陸ヲ要求セサリシヲ確メ同議長ノ許ニ駆付ケ督促スルモノナリト説明シタルカ果セル哉

今二十五日早朝首席領事ヨリ電話ニテ工部局ヨリ各國陸戰隊ノ助力ヲ要求シ来レリトノ通告アリ依テ米國總領事ヲ呼出しシ我居留民ノ意向モ同様ニテ山東軍昨夜上海北停車場ヲ占領シ上海ノ治安維持ヲ布告シ居ル以上仮令孫伝芳軍敗ルトモ（仏國總領事ハ二十四日南京ヨリ同國領事ノ來電ア内ハ平穏ニ帰セリ

ノ乗組員カ國民軍側ニ内通シ總工会糾察隊等ノ活動ヲ援助セムトシタルモノナルカ如シ又軍艦ノ砲撃ト便衣隊ノ警察襲撃トハ連絡アル行動ト見ルモノ少カラス両艦ノ関係者二十余名ハ直チニ防守司令ノ軍ニ捕ヘラレ軍艦ハ目下楊海軍總司令ノ監視下ニ在リ便衣隊モ警察局ヨリ整攘セラレ租界内ハ平穏ニ帰セリ

トナレリ
三、之ヨリ先浙江戰局ニ鑑ミ帝国第一遣外艦隊司令官ハ二月十七日軍艦平戸（青島）ニ上海回航ヲ命シ更三十九日佐世保ニテ待機中ノ軍艦天竜及第十八驅逐隊（特別陸戰隊三百ヲ含ム）ニ対シテモ上海回航ヲ命シタリ

右ノ結果目下上海在泊中ノ帝國軍艦次ノ如シ

利根（旗艦）

堅田

平戸

天竜

時津風

第十八驅逐隊

浜風

天津風

四、二月二十五日現在ノ上海各國警備狀態次ノ如シ

（英　國）

一、一個旅團

二、「サフォークス」連隊第二大隊

リ張孫會見ノ結果孫ハ多分下野スヘシトノコトナリト本官ニ語レリ）直ニ上海混亂ニ陥ルモノトモ思ハレスト述ヘタルニ米國總領事ハ自分ハ首席領事ニ対シ工部局ノ与ヘタル理由ハ不充分ナル旨ヲ指摘シ山東軍ト孫軍トノ開戦ノ可能性テモ生スレハ格別然ラサレハ未タ其時機ニアラスト答ヘタル旨ヲ語レリ依テ本官モ猶現ニ人ヲ派シテ確メ中ナレハ本官モ後報ヲ俟テ我司令官ニ伝達スルコトニスヘシト告ケ置キタリ

北京へ転電セリ

（付記）

上海時局ト各國警備狀態

二月二十五日調

一、二十二日夜六時半黃浦江江南機器局前ニ碇泊シアリタル支那軍艦建威、建康二隻（孫軍下ナルモ予テ態度ヲ疑ハレタルモノ）突然機器局ニ砲撃ヲ加ヘタルカ之ト前後シテ閘北ニ於テモ國民軍ノ便衣隊三百名支那警察處ヲ襲撃セリ右砲撃ノ原因ハ未タ悉ク明瞭ナラサルモ孫軍參謀長及防守司令側ノ説明ヲ総合スルニ右ハ艦長ノ不在ニ乗シ副長以下

他方仏國海軍司令官ハ直チニ「マルヌ」「アレルト」両艦ニ待機ヲ命シ支那砲艦ニ砲撃中止ヲ警告スルト共ニ陸戰隊三百ヲ仏租界ニ揚陸シ警戒シ尚仏國總領事ヨリ交渉貞ニ宛テ一応抗議シ又二十四日上海ニ海軍ヲ有スル日、仏、英、米、伊及和ノ六箇國ノ總領事首席領事ノ許ニ会合シテ右砲撃ニ關シ一九二四年ノ例ニ倣ヒ先任海軍司令官ヨリ警告方ニ付協議シ各國海軍司令官ニ伝達シテ其ノ裁断ニ俟ツコト

八〇〇既著ノ「パンジャブ」連隊	ピコス	同
ト交代（二十一日著）	マコーミック	駆逐艦
三、英人義勇隊	合計	五隻
四、「マリーン」及陸戦隊	八〇〇上海在住者	二〇〇未上陸
合計	七六〇〇	
(海軍)		
ホーキンス(旗艦)	巡洋艦	
カーライル	同	
ヴィンディクトイヴ	同	
エンタープライズ	同	
ダーバン	同	
カラドック	同	
スカラブ	同	
ウイヴァーン(R、六六)	駆逐艦	
合計	八隻	
(米国)		
ピツバーグ(旗艦)	装甲巡洋艦	
アシャーヴィル	砲艦	
サクラメント	同	

上海
2月25日後発
本省 2月26日後着

第一六一號(至急極秘)

(三四二文書)
第一五五号ニ關シテ英國總領事ヨリ其後若シ今二十五

日中ニ日本カ北四川路方面ノ防備線ヲ張ラサルナラハ自分
ハ陸軍指揮官ト相談シ不取敢同方面ノ英國住宅及工部局所
有者保護ノ為英兵ヲ配置シタシト述ヘタルニ付本官ハ二月
三日ノ海軍指揮官會議ニ於テ各受持区域内ニ在ル他国人ノ
工場住宅等ハ其ノ國ノ兵員ヲ以テ保護シ差支ナキ諒解成立
シ居ルニ付英兵配置ハ我海軍側ニモ異議ナカルヘシト答へ
置キタリ

其後右ノ次第ヲ我海軍側ニ伝ヘタル處右ハ既ニ上陸セル陸
兵ノ配置ナレハ問題トナラス又今朝ノ海軍指揮官會議ニ於

テ米國司令官ヨリ往電第一五五号ノ件以外ニ別ニ議スヘキ
提案ナキヤト念ヲ押シタル処英國司令官ハ何ニモナシト確
答シ陸戦隊上陸ノ件ハ何等議ニ上ラスシテ散会セリトノ返
事ナリシ

翻テ当地ノ状況ヲ観ルニ本二十五日ヨリ市中ハ全然平常ノ
状態ニ復帰シ且我司令官ノ用意ニテ日本電信局ノ樓上三百
百

343	昭和2年2月25日	在上海矢田總領事より 幣原外務大臣宛(電報)
343	昭和2年2月25日	在上海矢田總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

上海の事態平靜に復帰し陸戦隊の上陸不必要

との判断上申について

五十名ノ水兵宿泊シ居リ火急ノ場合ニ備ヘアリ他方万一人
場合ニ於ケル在留民避難ノ場所モ既ニ決定周知セシメ手配
万端整ヘアレハ此ノ際山東軍ノ來滬並ニ松江陥落ノ謡言ニ
驚キテ騒キ居ル英國ニ倣ヒ陸戦隊ヲ上陸セシムルニモ及ハ
サル可シト思考シ局面ノ發展ヲ注視シツツアリ
卑見ニ依レハ陸戦隊ノ上陸配置ハ即チ居留民動員ノ如キ非
常狀態ニ入ル次第ニテ鮮カラサル迷惑ヲ各方面ニ及ホス訣
ナレハ成ルヘク絶対必要ナル短キ期間ニ致度ク右英國側ノ
騒キモ多數陸兵ヲ擁シテ宿舎ニ苦シミ居ル結果之ヲ各方面
ニ分宿サセントノロ実カト疑ハル節モナキニ非ス(現ニ
義勇隊モ未タ召集ナシ)依テ本官一己ノ責任ニテ右要求ヲ
握リ居ル次第ナリ右御諒解ヲ請フ
在支公使ヘ転電セリ

344 昭和2年2月28日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

在留邦人は陸戦隊の上陸を希望せざる状況に

本省 2月28日後着 発

第一七二号（極秘）

貴電第五七号ニ閲シ

一、本官ハ紡績ノミナラス一般在留民ニ対シ何時ニテモ陸戦隊上陸ノ必要アラハ之ヲ司令官ニ伝達スヘシト告ケ司令官モ去ル二十二日紡績業者ヲ始メ在留民ノ主立チタルモノ五六名ヲ集メ在留民保護ニ閔スル計画ヲ説明シ陸戦隊上陸ニ就キ在留民ノ希望ヲ成ルヘク早ク知リタキ旨ヲ訓示シタルモ何人モ今ヤ其時機ナリト言フモノナク同日夜本官民団ト共ニ避難地点其他ノ打合ヲ為ス為紡績連合会、商業會議所ヲ始メ殊ニ何時モ問題ヲ生スル租界外居住者ノ代表ヲ集メテ協議シタル際必要ノ場合ニ対スル意見ノ交換アリタルノミニテ今直ニ兵力ノ保護ヲ得タントノ言ヲロニシタルモノナク貴電冒頭ノ当地実業家ノ電報ナルモノハ不思議ニ感セラルル次第ナリ

二、陸戦隊上陸ト同時ニ小学校女学校ノ休学、公共機關ノ動員等ハ已ムヲ得サルコトナレトモ海軍ニテハ陸ト各艦トノ連絡、指揮ノ便宜等ニ依リ司令官幕僚ノ坐乗セル旗艦ハ是非共領事館前ノ郵船碼頭ニ横付ニシテ指揮ヲ執ル手筈ナリ五・三十事件ノ際モ同様ナリシカ其際ハ碼頭苦

345 昭和2年3月(2)日 在上海矢田總領事より 整原外務大臣宛(電報)

各国陸戦隊の上海上陸状況について

上海 本省 3月2日後着 発

第一八四号 往電第一五八号ニ閲シ

三月一日領事会議ニ於テ各國陸戦隊上陸要請ニ閲スル市參事会議長ノ首席領事宛書面ニ就キ議シタルカ先ツ米國總領事ハ首席領事ヨリ電話通知アリタルヲ以テ直ニ議長「フェセンデン」ニ対シ「義勇隊ヲ召集セリヤ」〔emergency〕ヲ布告シタルヤ〔三〕租界内ニ disorder アリヤノ三点ニ就キ質問シタルニ何レモ否トノ確答ニ接シタルヲ以テ米國海軍ヲ上陸警備セシムルコトヲ justify スル事由ナシト信シ司令官ニ伝達ヲ見合ハセ居レリト述へ次テ本官ハ右要請ヲ受クルト共ニ直ニ手段ヲ尽シテ租界外ノ状況ヲ取調ヘタルモ未タ居留民ノ生命財産ニ対スル危険迫レリトノ心証ヲ得ルニ至ラスト述へ和蘭領事ハ市參事会ニ対シ義勇隊ヲ召集セサル前ニ租界内ノ秩序維持ニ關シ各國海軍ノ助力ヲ求メタル理由ヲ詰問スヘシト述へ最後ニ英國總領事ハ山東軍ト孫軍トノ関係ハ何時決裂スルヤモ測リ難ク敗兵ノ侵入ヲ防ク為工部局ノ陸戦隊要請ハ理由アルコト信スト弁疏シタルニ付本官ヨリ貴下ハ今尚各國陸戦隊ノ上陸ヲ必要ト認メ居ラルヤト反問シタル處既ニ「メネースド、エリヤ」ハ印度兵ニ依リテ防備セラレ居ルヲ以テ目下ノ処其必要ナカルヘシト明言セリ

力龍業中ニテ船会社ニ於テ迷惑ヲ被ムルコトナカリシモ

今回ハ日清、郵船トモ平常ノ通ニテ此際一部碼頭ヲ使用

出来ヌコトニナリテハ目下揚子江唯一ノ交通機関タル

「日清」ノ如キ殊ニ其ノ営業上ノ阻害ヲ受クルコト多大

ナルモノアリ從テ本官力仮ニ一二実業家ノ声ヲ聴キ陸戦

隊ヲ上陸セムカ多少ニテモ迷惑ヲ被ムル方面ヨリ詰問ヲ

受クヘク而モ船会社ノ反対ハ其公共的性質ニ鑑ミ一般輿論ノ贊同ヲ得ルコト多カルヘシト存セラル

三、二月二十八日現在公共租界ニハ日、英、米、伊、和ノ各國軍艦ヨリ未タ一名モ陸戦隊ハ上陸シ居ラス

伊國陸戦隊上陸ノ報アリタルニ付海軍側ニテ取調ヘタルモ其形跡ナシ

力龍業中ニテ船会社ニ於テ迷惑ヲ被ムルコトナカリシモ

今回ハ日清、郵船トモ平常ノ通ニテ此際一部碼頭ヲ使用

出来ヌコトニナリテハ目下揚子江唯一ノ交通機関タル

「日清」ノ如キ殊ニ其ノ営業上ノ阻害ヲ受クルコト多大

ナルモノアリ從テ本官力仮ニ一二実業家ノ声ヲ聴キ陸戦

隊ヲ上陸セムカ多少ニテモ迷惑ヲ被ムル方面ヨリ詰問ヲ

受クヘク而モ船会社ノ反対ハ其公共的性質ニ鑑ミ一般輿論ノ贊同ヲ得ルコト多カルヘシト存セラル

345 昭和2年3月(2)日 在上海矢田總領事より 整原外務大臣宛(電報)

各国陸戦隊の上海上陸状況について

上海 本省 3月2日後着 発

第一八四号 往電第一五八号ニ閲シ

猶其際本官ハ新任伊國總領事ニ伊兵上陸ノ有無ヲ問ヒタルニ五百名上陸シタリト答ヘタルニ付帰途米國總領事ニ対シ伊國總領事ハ伊兵上陸警備ニ付ケリト云フモ我海軍ノ取調ニ依レハ其形跡ナシトノコトナルカト質問シタルニ米國總領事曰ク伊兵ノ受持区域ハ近所ナレハ人ヲ派シテ取調ヘシメタルモ其影ヲ認メストノ報告ナリ怪ムヘシ或ハ數十名上陸シテ何レカ日ニ付カサル処ニ舍營シ居ルニアラスヤ米國司令官ハ海兵千五百名ヲ運送船内ニ留メ置クコトヲ好マス一日モ早ク警備ニ付カセタキモ目下市中ノ状況ニテハ上陸ノ理由ナク自分（米國總領事）ニ対シ要求ヲ受クルモ拒絶スヘシト言ヘリ云々

北京へ転電セリ

346 昭和2年3月14日 在上海矢田總領事より 整原外務大臣宛(電報)

上海防備に關し英國と同調せざる理由等山本代議士等に説明について

上海 3月14日後発 本省 3月15日前着

政友会代議士山本条太郎、森格氏等が近頃本官ニ對シ政府ハ何故ニ上海防備ニ關シ英國ト共同ノ責任ヲ負担スル事ヲ躊躇スルヤトノ質問ヲナシタルニ付左ノ趣旨ニテ説明シ置ケリ

日本ハ租界秩序維持ノ共同ノ責任ハ終始變スル事ナク進ンテ負担シ居レリ空前ノ數ト言フヘキ千五百ノ陸戦隊ヲ派遣セルモ此發現ニ外ナラス即チ広キ意味ノ上海警備ニハ既ニ各國ト共同シテ当リ居ル次第ナリ但シ目下陸戦隊ヲシテ防備ニ就カシメ居ルハ伊太利一国ノミナルカ英國ハ当初列國ノ海軍力ノ分担ニ関スル協定トハ全然独立シテ多數ノ陸軍

ヲ招來セルカ其兵力及目的配置等ニ付テハ本官ハ何等公然通知サレタル事ナン右陸兵派遣並ニ租界外ノ線ニ出テテ防備線ヲ張リ居ル事ニ付地方団体並ニ北京政府ヨリ抗議サレ

居ル由ナルモ右ハ英國単獨ニテ措置スル事ト考ヘラル我海軍ノ防備線ニ就カサルハ未タ其必要ヲ認メサル故ナリ

仮ニ南軍上海ヲ占領スルトシテモ日本人ノ生命財産ニ危險ナク租界ノ秩序維持サレンカ依然防備線ヲ張ラサルヤモ知レス最近暗殺團横行シ支那人職工同士ノ殺シ合ヒ行ハレ紛糾側モ憂慮シ居ルモ右ハ海軍力ヲ以テハ如何トモシ難シ

ナル要求条件ヲ提出シ政治的罷工ヲ為サントスルノ傾向アフル趣電報ニ接セリ何等邦人ノ生命財産保護ノ為此ノ際適当ノ御处置アランコトヲ懇願ス

348 昭和2年3月18日

在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

共同租界内の秩序維持に関し工部局に注意喚起について

本省 3月18日前着

第二六三号

往電第二五九号ニ閑シ

十七日臨時法院裁判官ノ協定曲解問題ニ關シ五國委員ノ臨時委員会開催サレタル際本官ヨリ我方紡績工場内ノ殺人団横行ノ状態ヲ説明シ領事団トシテ共同租界内ノ安寧秩序保持ノ責任上何等カ適當ノ措置ヲ講スル必要アル旨ヲ力説シタル處英國総領事ハ実ハ今朝電車会社ノ支那人監督ノ妻射殺サレタル程ニテ何トカセサルヘカラスト述ヘテ本官ノ提議ヲ賛成シ其ノ方法等ニ付討議シタルカ結局工部局ヲシテ適當ノ手段ヲ講セシムル様注意ヲ促ス事トナリ首席領事ノ

347 昭和2年3月15日 谷口(房藏)在華日本紡績同業会委員
幣原外務大臣宛(電報)

上海情勢の悪化に対し在留邦人の生命財産保

護のため適当の処置請願について

大阪 3月15日後発
本省 3月15日後着

無号

上海ハ情勢最近著シク惡化シ暗殺團ノ跋扈ニ依リ工人ノ狙撃ヲ受ケ且昨日来工会ハ西部紡績ニ対シ漢口ニ似タル過激賴シ難キ点アルヲ以テ明十八日五人連袖交渉員ヲ訪問シ交渉スルコトニ決セリ

349 昭和2年3月18日

木村亞細亞局長より
谷口在華日本紡績同業会委員長宛

在留邦人保護および総工会対策について

拝啓陳者上海最近ノ情勢ニ關シ大臣宛貴電拝承致候右貴電ニ就テハ鐘紡橋爪氏態々來省アリ其節ニモ篤ト申上置候通り上海ニ於テハ總領事及遣外艦隊司令官ニ於テ夫々万一旦最悪ノ場合ニモ充分応シ得ヘキ準備ヲ整ヘ大体ノ計画ハ曩ニ在留邦人殊ニ紡績側幹部ニ説示シ陸戦隊ノ陸揚ヲ必要トルスル意見アラハ何時ニテモ適當ノ措置ヲ講スヘキ旨ヲ告ケタルモ列席ノ民間代表者ヨリハ陸揚ノ希望申出之ナカリシ趣ナルカ其ノ後ニ於テモ總領事司令官共細心ノ注意ヲ払ヒツツアル次第ハ當方ニ於テ日日接受スル電信ニ依リテモ明カニ付目下ノ情勢ニ於テハ在留邦人ノ生命財産ハ何等危險ヲ感スルコトナカルヘキカト考ヘ居候

御承知ノ通リ今回ノ罷業ハ大体ニ於テ政治的色彩ヲ有スル

英國ノ如キ殆ント連日樂隊ヲ付ケテ各種ノ海陸軍ヲシテ市中ヲ練リ歩カシメテ支那人心ヲ安定セシメツツアリト信シ又租界ノ周囲ニ物々シキ鉄条網ヲ張リ甚シキハ境界ニ当ル市外ニハ中央ニ念入りリノ防墻ヲ設ケテ両側ノ交通ヲ全ク遮断シ居ルカ如キ本官ハ住民商賈ニ対シ不必要ナル損害迷惑ヲ与フルノミナラス支那人ノ反感ヲ挑発シ然モ実用トシテ役ニ立タヌト思ヒ居ルモ英國人ニハ英國人ノ考アラン要スルニ如何ニ共同ト言フモ人種モ思想モ軍人精神モ異ル以上實際上ノ細目ニ付遣リ方ノ異ナル已ムヲ得サルヘシ

在支公使ヘ転電セリ

ヲ以テ上海方面ノ政状ノ変遷ニ伴ヒ或ハ短期間ノ罷業ヲ見ルコトハ有之ヘクトモ思考セラレ候へ共是ハ目下ノ場合

方モ無之実ハ数日以前ニモ既ニ大臣ヨリ訓令相成居ル次第

ニ有之候得共貴電御来示並橋爪氏懇談ノ次第モアリ為念矢

田總領事へハ申送ルヘク候

尚此機会ニ於テ氣付ノ点ヲ申上候へハ最近上海ヨリ帰来シ

タル者ノ言フ所ニ依レハ同地貴連合会ハ委員制ト相成居ル

ル結果諸事決定上鬼角議論經り兼ネ対外交渉上時機ヲ逸ス

ルコト尠カラサル嫌ヒアリ又罷業ブローカー密偵操縦等ニ

関シテモ各社個々別々ニ其ノ事ニ当リ隨テ之カ操縦費ノ如

キモ各社ヲ通算スレハ相当ナル金額ニ上リ居レルニ拘ラス

其ノ効果ヨリ見レハ割合不経済ニ費消セラルヤノ趣ニ有

之候處右ハ固ヨリ一旅行者ノ觀察ニ止マリ當方ニ於テ之ヲ

確メタル次第ニ付確言致難キ處ナルモ現下ノ上海

ノ形勢ニ照シ紡績關係者ハ是非共歩調ヲ揃ヘ対総工会「フ

ロント」ヲニシテ局ニ當ルヘキ必要最切実ナル時機ニモ

アリ又申迄モナク右ノ趣旨ニテ船津総務モ折角努力セラレ

居ル事ト存候ニ付此ノ上トモ協力殊ニ裏面ノ運動等モ充分

矢田總領事雪沢事務官等ト連絡ヲ密ニシ事變ニ善処致度何

等御参考迄ニ思付ノ儘得貴意候 敬具

昭和二年三月十八日

在華紡績連合委員長 谷口房藏殿

木村銳市

350 昭和2年3月19日 出淵外務次官 テイリー英國大使会談

英國大使に上海の状況はとくに憂慮すべき事態

にあらずと談話について

支那時局ニ關シ英國大使來訪ノ件

昭和二年三月十九日土曜日夕刻英國大使出淵次官ヲ來訪シ本日受取リタル電報ニ依レハ常州愈南軍ノ手ニ帰シ淞江モ

陥落シ上海ノ運命旦夕ニ迫リタル模様ナルカ外務省ノ有セ

ラル情報如何ト尋ネタルニ付次官ヨリ只今迄ニ受取リタ

ル上海方面ノ情報ヲ總合スルニ常州ハ御話ノ如ク殆ト陥落

シタルモノノ如ク一般ノ形勢南軍ニ有利ニ展開シツツアル

ニ顧ミ上海ハ恐ラク遠カラス南軍ノ手ニ帰スヘシト思考セ

ラル旨答ヘタルニ英國大使ハ南軍上海ニ殺到スル場合ニ

ハ必ス各方面ニ於テ山東軍トノ間ニ衝突起リ上海ノ秩序紊

乱シ外国人ノ生命財産危険トナルヘシト考ヘラル処右保護上日本政府ニ於テ如何ナル方針ニ出テラルヘキヤト尋ネタリ右ニ對シ次官ヨリ日本政府ニ於テハ先般「ピーターン」一等書記官ニ交付シ置キタル軍艦名ノ外其後更ニ三艘ノ巡洋艦ヲ上海ニ派遣シアリ何時ニテモ必要ノ場合ニハ約千五百名ノ陸戦隊ヲ上陸セシメ得ル手筈ト相成リ居ルヲ以テ各国ノ陸戦隊及英國ノ陸兵ト協調セハ上海ノ秩序維持上別段不足無カルヘク從テ昨今ノ上海時局ニ顧ミ別ニ新タナル考案ヲ有スル次第ニ非ス自分一個ノ考ニテハ南軍ト山東軍トノ間ニ上海方面ニ於テ戦争スルカ如キコトハ恐ラク無カルヘク敗兵ノ上海侵入ヲ阻止スルカ如キハ各国ノ陸戦隊ニテ充分ナルヘシト答ヘタルニ英國大使ハ上海租界ノ防備ハ遺憾無キヲ得ルトシテモ「チャイナ・タウン」ニハ必ス南軍進撃ヲ試ムルニ至ルヘシト語レルニ付次官ヨリ「チャイナ・タウン」ハ一面ハ河ニ依リ一面ハ仏國租界ニ依リ蔽ハレ居リ別段防備ヲ為シ居ルニ非サルヲ以テ南軍之ニ向テ烽火ヲ距ル數哩ノ地点竜華付近ナルヘシト考ヘラルモ南軍優勢トナラハ山東軍戰ハスシテ降服シ竜華ハ恐ラク格別ノ

戰爭ナクシテ南軍ノ手ニ帰スヘク勿論此混雜ニ伴ヒ各方面ニ小衝突起リ且又一般的「ストライキ」ヲ見ルニ至ルヘキモ恐ラクハ数日内ニハ平靜ニ帰シ上海ハ南北對峙ノ下ニ於テ襲ハレツツアリタル恐怖ノ念ヲ一掃スルニ至ルヘキカト思考セラル南軍ノ權力下ニ入りタル以上ハ一時漢口方面ニ於テ見タルカ如キ種々ナル事態起ルヤモ測リ難キモ吾人ノ最モ心配スル外国人ノ生命財産丈ハ別ニ侵迫ヲ受クルカ如キコト無カルヘシト告ケタルニ英國大使ハ尚南軍ノ侵入ニ對シ心配シ居ルカ如キ様子ヲ示シ過日モ英國兵ノ手ニテ北軍ノ租界通過ヲ阻止シタル例アリ等ト語リ相當不安ノ念ヲ抱キ居ルモノノ如ク見ヘタリ

351 昭和2年3月19日 在上海矢田總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

英國の兵力増強の目的などに関する推測につ

いて

上海 発
本省 3月19日前着

ニ着弾観測所ヲ設ケルコトヲ申入レ（拒絶サレタリ）「ゼスファイルド」公園付近ニハ探照灯ヲ据付ケテ兵艦ヲ照ラシテ待受クル等全然南軍ニ対スル戦争準備ノ態度ニシテ而モ英國政府ハ猶引続キ兵力ノ増援ヲ為シツツアル旨路透ニテ伝ヘラレ旁々第三者ヲシテ其真意ニ付臆測ノ余地ヲ与ヘ或ハ何等カ裏面ノ目的ヲ包藏シ居ルニアラサルヤノ疑惑ヲ生セシムルモノアリ然ルニ他方南軍ハ浙江既ニ略取シタル以上南京ヲ攻略スレハ上海ハ自然其手中ニ帰スヘキヲ以テ英兵トノ衝突ヲ惹起スル危險ヲ冒スコトナク専ラ総工会等ヲ指嗾シテ經濟的攪乱ニ力ヲ注クヘキハ其再三ノ声明ニ依リテ明瞭ナリトス而シテ右情勢ニ対シ英國カ如何ナル方針ヲ執テ対抗スヘキヤヲ考察スルニ若シ「モップ」カ排英ヲ標榜シテ暴行ヲ為サムカ英國兵ハ容赦ナク之ヲ彈圧スヘキハ〔二三六文書〕往電第一二五号英國總領事ノ所言ニ徴スルモ明白ナレトモ若シ總工会モ支那人ニ対スル脅嚇手段（現ニ執リツツアルカ如キ方法）ニ依リテ總罷業ヲ行ヒ「ボイコット」ヲ為シ経済組織ノ「バラライズ」ヲ計ルトセムカ英國兵ト雖英國商社ヨリ引揚クル使用人ヲ強力ヲ以テ阻止シ得サルヘク又ハ英國船舶乗組支那人ノ逃亡ヲ兵力ヲ以テ監視スルモノ英國船舶乗組支那人ノ逃亡ヲ兵力ヲ以テ監視スルモノ

閣ノ計画シタルモノナリト事實ラシク本官ニ語ルモノアルモ結局〔〕ノ推測カ最事實ニ近キニハアラサルカ
北京へ転電セリ

352 昭和2年3月19日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

内外綿第九工場食堂に於ける工人殺害事件に
関し總工会側要求提出について

工場内ニ拳銃ヲ持込ム事不可能ナル事
二、当夜工場ノ外周ハ英兵及警官等ニテ警戒シ居タルヲ以テ外部ヨリ壁等ヲ乘越エ工場内ニ潜入スル事不可能ナリシ事
三、被害者ハ總工会ニ関係アリテ会社側ヨリ注目セラレ居タル事
四、被害者ハ午後九時頃日本人職員平松ニ喚ハレ其儘戻ラサリシ事
五、工場内ニテ拳銃ヲ携帶スル者ハ日本人二名ナル事等ノ尤モラシキ理由ヲ挙ヶ加害者ハ日本人職員ナルニ相違ナカルヘシテ嚴重調査方ヲ要求セリ
他方新聞紙ノ報道ニ依レハ十六日夜ノ總工会ハ

一、国民政府ニ対シ日本政府ニ嚴重抗議方ヲ要請スル事
二、全国各團体ニ通電ヲ發シテ援助ヲ求ムル事
三、代表者ヲ市民代表大会並ニ鈕永建ニ派シ事情ヲ陳述セシムル事
四、日本總領事館ニ対シ犯人嚴罰方ヲ要求スル事
五、宣言ヲ發シテ各工会ニ支持ヲ求ムル事

船ヲ出帆セシムルコト能ハサルヘク而シテ退イテ傍観的態度ヲ執ラムカ英國ノ威信利權ハ地ニ墜ツル虞アリ所謂進退兩難ニ陥ルコト免ルヘカラサル帰着点ナリトス猶仮ニ裏面ノ目的アリトスレハ結局次ノ如キモノナルヘシト想像セラル

（一）單ニ威嚇用トシテ相當期間大兵ヲ上海並香港ニ止メ對支交渉ニ利用スルニ過キサルカ

（二）四月中旬揚子江ノ水量增加シ大型艦船ノ湖江ニ便ナル時期到達ヲ俟テ公然南軍ノ穩健派即チ蔣介石等ノ「コード」ヲ贊助シテ武漢派ニ対シ赤露ノ勢力驅逐ヲ迫リ一種ノ「アルティメタム」ヲ突付クルカ

（三）又ハ将来適當ノ機会ニ於テ対支政策即チ對露政策ナリトシ露國ニ対シ支那内政干渉、排英煽動ヲ差止ムル措置ニ出ツル際ニ利用セムトスルカ

ノ三者ヲ出テサルヘシ

而シテ（）ハ單ナル想像ニシテ英國ニ其決心アルヤ否ヤハ疑ハシト雖之ヲ信スル外支人少カラス〔〕ハ更ニ遠大ナル計画ニ基ク政策ナルカ夫レニシテハ兵力モ多カラスト思ハルモ英人中之ヲ信スルモノアリ今次ノ出兵ハ二年前ヨリ現内

往年顧正紅及陳アドウ事件アリ又々曾福根事件アリ吾等工人起ツテ自衛シ日本帝国主義者ト鬭フニアラスンハ彼等ノ工人屠殺ハ日頃ニ増加スルニ至ルヘシトテ各工会ニ向ヒ日本帝国主義者ヲ非難攻撃スル宣言ヲ発スル事及第九工場ノ罷工工人ニ慰問使ヲ差出ス事ヲ要求シタリ

惟フニ本件ハ五三十事件ノ発端ニ於テ顧正紅ノ死ヲ利用シタル例ニ倣ヒ總工会側ニ於テ利用ノ目的ヲ兼ネテ仕組ミタル「トリック」ナルヘキ事疑ヒナク旁時節柄日本人力支那人ヲ殺害スルカ如キ事アリ得ヘカラサルノミナラス警察ノ取調ヘニ拠レハ日本人職員三対スル嫌疑ハ之ヲ反駁スルニ足ルモノアルモ其有無ニ拘ハラス犯人現実逮捕セラレサル限り本件ハ彼ニ依リテ今後相当利用セラルヘシ

北京、奉天、天津、濟南、漢口、九江、重慶、南京、廈門、福州、汕頭、廣東、香港ヘ転電シ蘇州、杭州ヘ暗送セリ

353 昭和2年3月20日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報) 革命軍の上海進入に呼応し祝賀デモ等の準備進行について

355 昭和2年3月21日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報) 罷工開始通達後の上海市況について

第二八五号(至急)
(三五四文書)
往電 第二八四号ニ関シ

一、武装暴動ノ計画ヲ実施セルモノカ使衣隊ノ支那警察署襲撃及威嚇的砲火二三個所ニ起リタリ

二、郵便局罷工ノ模様ナク又其屋上ニハ青天白日旗掲揚セラル

三、南京路ノ支那百貨店三軒閉業シ街上人出夥シ北四川路ノ支那商店亦閉店セルモノ多ク又青天白日旗ヲ掲ケ居ルモノアルノミナラス街上同旗ヲ手ニシン三々五々歩ミ居ルモノアリ

四、義勇隊二次召集セラレ夫々部署ニ付キタリ

五、海員点呼ヲ開始ス

北京、南京、漢口、天津、青島、濟南、廣東、奉天、福州、蘇州ヘ転電シ杭州ヘ暗送セリ

356 昭和2年3月22日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報) 上海罷工各部門の状況について

上海 3月22日後發
本省 3月23日前着

第二九六号

(一)郵便局、電車、「バス」紡績、船員等全部罷工セルカ罷工期間ハ二十一日ヨリ三日間トモ伝ヘラル水道モ亦一部ノ罷工アリタルモノノ如ク今朝給水不充分ナリシカ正午ヨリ復旧セリ

(二)碼頭苦力モ殆ト全部罷工セリ

(三)便衣隊浦東日清碼頭ヲ襲ヒ巡警ノ武器ヲ奪取セルカ急報ニ依リ陸戦隊ヨリ派兵セリ

北京、南京、漢口、天津、青島、濟南、廣東、奉天、福州ヘ転電セリ

357 昭和2年3月22日 谷口在華日本紡績同業会委員長(在大坂)より
幣原外務大臣宛 陸戰隊の保護に謝意表明および總工会の西部紡績に対する要求条項について

上海 3月20日後着
本省 3月21日後着

第二七七号

南軍ノ上海侵入ハ茲両三日中ノコトナルヘシトテ国民党共産党總工会其他各団体ニ在リテハ祝賀游行、歡迎大会等ノ諸準備ヲ進メツツアリト言フ

北京ヘ転電セリ

354 昭和2年3月21日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛(電報) 總工会の罷工開始について

上海 3月21日後發
本省 3月21日後着

第二八四号(至急)

總工会ハ南軍ノ上海到着ノ直前三罷工ヲ開始スヘシトテ本日正午ヨリ罷工スヘキコトヲ各工会ニ通達シタル結果既ニ電車ノ一部及紡績工場ノ大部分罷業セルカ漸次一般ニ及ブヘキ形勢ナリ

転電先往電第二七八号ニ同シ

拝啓陳者上海ノ動乱ニ際シテハ迅速ニ適當ノ処置御講被下各工場ハ陸戰隊ノ完全ナル保護相受候事同業者一同感謝ノ至リニ堪ヘ不申候別紙ハ過日工会ノ名ヲ以テ西部紡績ヘ提出セラレタル要求条項ニ有之候處愈上海カ完全ニ南軍ノ手ニ帰シタル以上不日東部紡績モ同様ノ要求ニ接スヘク斯テ全般ノ問題トシテ彼我ノ間ニ討議セラル事ト可相成候然ルニ右条項ハ内地紡績ニモ至大ナル影響ヲ來スヘク到底容認スル能ハサルニ付遂ニハ一齊工場閉鎖ノ止ムヲ得サル状致度考ニ候得共万ノ場合ハ致方無之候ニ付予メ御省ノ御諒解ヲ得度此上トモ一層ノ御保護被成下度此段奉懇願俟

リ總領事閣下ノ御尽力ヲモ仰キ可成穩和ナル方法ニテ解決致度考ニ候得共万ノ場合ハ致方無之候ニ付予メ御省ノ御

諒解ヲ得度此上トモ一層ノ御保護被成下度此段奉懇願俟

全般ノ問題トシテ彼我ノ間ニ討議セラル事ト可相成候然

ルニ右条項ハ内地紡績ニモ至大ナル影響ヲ來スヘク到底容認スル能ハサルニ付遂ニハ一齊工場閉鎖ノ止ムヲ得サル状致度考ニ候得共万ノ場合ハ致方無之候ニ付予メ御省ノ御

諒解ヲ得度此上トモ一層ノ御保護被成下度此段奉懇願俟

リ總領事閣下ノ御尽力ヲモ仰キ可成穩和ナル方法ニテ解決致度考ニ候得共万ノ場合ハ致方無之候ニ付予メ御省ノ御

諒解ヲ得度此上トモ一層ノ御保護被成下度此段奉懇願俟

全般ノ問題トシテ彼我ノ間ニ討議セラル事ト可相成候然

ルニ右条項ハ内地紡績ニモ至大ナル影響ヲ來スヘク到底容認スル能ハサルニ付遂ニハ一齊工場閉鎖ノ止ムヲ得サル状致度考ニ候得共万ノ場合ハ致方無之候ニ付予メ御省ノ御

諒解ヲ得度此上トモ一層ノ御保護被成下度此段奉懇願俟

昭和二年三月二十二日

在華日本紡績同業会

委員長 谷口 房藏 (印)

外務大臣 幣原 喜重郎殿

(別 紙)

敬具

以上ノ各休業日ハ工銀ヲ支給シ又日曜日（交代日）ト振替ユルヲ得ス

日曜日ノ作業ハ均シク倍加工銀ヲ支給シ、又陰曆十二月ハ全月倍加工銀ヲ支給スルコト

五、工人ノ請暇ハ六ヶ月以内ヲ以テ終レルモノハ依然旧職ニ復帰シ得ルコト

六、五三十ヨリ現在マテニ失業セル工人ヲ復職セシムルコト

七、故ナク工人ヲ解雇シ又ハ工人濫罰スルコトヲ得ス若シ

真ニ廠規ヲ犯シ又ハ「ハンク」ヲ偷ミ綿糸等ヲ盜ミタルモノハ工会ニ通知シ同意ヲ得テ其ノ罪科ヲ宣布シ之レヲ懲罰スルコト

八、平等ナル新工場規則ヲ改訂シ待遇ヲ改善スルコト

九、工人ノ疾病ハ会社ヨリ医薬費ヲ酌給シ且疾病期間ノ工銀ハ全額支給スルコト

若シ仮病ヲ用フルモノアラハ工会ノ責任ヲ查明シ之レヲ処罰ス

358 昭和2年3月24日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

北四川路租界外居住の日本人および外国人に

工部局租界内に避難方勧告について

上海 発
本省 3月24日前着

第三〇六号（至急）

工部局ハ昨二十二日午後四時頃警官ヲシテ北四川路日本小

此際種々ノ行違ヲ生スヘキハ諒トスルモ斯カル不確実ナル情報ニ基キ勝手ナル警告ヲ発セラレテハ迷惑至極ニ付本官ハ司令官トモ協議ノ上在留邦人ノ人心安定策ヲ講スルト共ニ朝日ヲ本官ト工部局トノ連絡者ニ推薦シ今後情報ノ交換ヲ為シ間違ヲ生セサル様協定セリ

在支公使ヘ転電セリ

一、工会ハ全体工人ヲ代表スルノ権アルヲ承認シ且ツ会社ヨリ創設費モ給与シ、会所トシテ家屋ヲ貸与シ又毎月ノ手当洋一百元ヲ支給スルコト

二、工銀十元以内ノ者ニハ十分ノ三、二十元以内ノ者ニハ十分ノ二、三十元以内及以外ノ者ニハ十分ノ一ヲ増加スルコト

三、毎月四日分ノ賞与ハ一日欠勤セル者ニハ控除セス、二日欠勤セルモノニハ一日分ヲ控除シ今後ハ賞与ノ四日分ヲ工銀中ニ加算スルコト

四、日曜及紀念日例ヘハ二七、三十八、五一、五四、五九、五三十等ハ各々一日休業シ陰陽節句例ヘハ端午、仲秋等ハ各一日休業シ除夜元旦共ニ五日間休業シ陽曆元旦ハ一日休業ス

以上ノ規則ハ嚴重ニ实行ス

千九百二十七年三月二十四日

363 昭和2年4月(1)日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

共同租界行政に関する英國の態度に鑑み領事

360 昭和2年3月24日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

一、如何ナル種類ノ支那軍隊兵士及警官ニテモ租界内或ハ
租界ニ属スル道路ニ侵入シ又ハ止マルコトヲ許サス
二、領事館員或ハ市民警備隊援助ノ為上陸セル海陸軍ノ一
員タルカ或ハ外国租界工部局ヨリ正当ニ認可サレタルモ
ノニ非サレハ如何ナル名目ニ於テモ特種ノ団体或ハ協会
員タルコトヲ表徴スル正服ヲ着シ或ハ特異ノ衣服或ハ徽
章ヲ着シ街上或ハ公共ノ場所ニ現ハルルコトヲ許サス
三、如何ナル名目ニ於テモ街上或ハ公共場所ニ於テ支那文
字又ハ外國文字ヲ書キタル旗幟ヲ樹テ或ハ飾帶或ハ各種
ノ模様ヲ着クルコトヲ得ス

四、住民ハ全部午後十時ヨリ午前四時迄家屋ニ止マラムコ
トヲ求ム

五、此ノ警告ノ条項ニ違反シ或ハ工部局ノ正当ニ認可サレ
タル他ノ役人平和及秩序維持ニ從事スルニ対シテ干涉
シ或ハ其ノ付与サレタル権利ヲ侵シ或ハ平和又ハ秩序ヲ
妨害スルカ如キ行動ヲ敢テスルモノハ直ニ逮捕ス

359 昭和2年3月24日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

総工会が白崇禧の命により各工人に复工命令

発出について

361 昭和2年3月25日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

第三〇七号(至急)

總工会ハ白崇禧ノ命ヲ奉シ本日午前十時ヨリ武装糾察隊ヲ
除キ各工人一律复工ノ命令ヲ發スルト同時ニ緊急広告ヲ以
テ各支那新聞ニ掲載セルカ未タ我紡績工場ニハ复工ノ模様
見ヘス(午前十一時)

北京、青島、天津、奉天、濟南、漢口、南京、廈門、廣
東、汕頭、福州、芝罘へ転電セリ

362 昭和2年3月27日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

上海市街商店の開店状況および邦人避難者数
について

363 昭和2年4月(1)日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

上海市街商店の開店状況および邦人避難者数
について

364 昭和2年3月25日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

工部局の第三回宣言発出について

365 昭和2年3月27日 在上海矢田總領事より 勅原外務大臣宛(電報)

工部局の第三回宣言発出について

外国语工部局ハ左ノ如ク警告ス

一、如何ナル種類ノ支那軍隊兵士及警官ニテモ租界内或ハ
租界ニ属スル道路ニ侵入シ又ハ止マルコトヲ許サス

二、領事館員或ハ市民警備隊援助ノ為上陸セル海陸軍ノ一
員タルカ或ハ外國租界工部局ヨリ正当ニ認可サレタルモ
ノニ非サレハ如何ナル名目ニ於テモ特種ノ団体或ハ協会
員タルコトヲ表徴スル正服ヲ着シ或ハ特異ノ衣服或ハ徽
章ヲ着シ街上或ハ公共ノ場所ニ現ハルルコトヲ許サス
三、如何ナル名目ニ於テモ街上或ハ公共場所ニ於テ支那文
字又ハ外國文字ヲ書キタル旗幟ヲ樹テ或ハ飾帶或ハ各種
ノ模様ヲ着クルコトヲ得ス

四、住民ハ全部午後十時ヨリ午前四時迄家屋ニ止マラムコ
トヲ求ム

五、此ノ警告ノ条項ニ違反シ或ハ工部局ノ正当ニ認可サレ
タル他ノ役人平和及秩序維持ニ從事スルニ対シテ干涉
シ或ハ其ノ付与サレタル権利ヲ侵シ或ハ平和又ハ秩序ヲ
妨害スルカ如キ行動ヲ敢テスルモノハ直ニ逮捕ス

第三二三号

南京路ノ各商店ハ今二十四日ヨリ殆ト全部開店シ北四川路
方面ハ約三割開店シ又予メ用意シ置キタル避難所ニ収容セ
ラレタル邦人数昨夜八時現在ニテ八百七十四人アリタルカ
今朝來正午迄ニ其約七割ハ各住家ニ戻リタリ

猶往電第三〇六号中ニハ避難所ニ収容セラレタルモノノ概
数ノミヲ挙ケ右以外ノ知己旅館事務所等ニ避難シタルモノ
ノ数ヲ挙ケサリシカ其数ハ約一千人位ノ見込ナリ

乗合自動車復業セリ

北京へ転電セリ

總工会ハ白崇禧ノ命ヲ奉シ本日午前十時ヨリ武装糾察隊ヲ
除キ各工人一律复工ノ命令ヲ發スルト同時ニ緊急広告ヲ以
テ各支那新聞ニ掲載セルカ未タ我紡績工場ニハ复工ノ模様
見ヘス(午前十一時)

北京、青島、天津、奉天、濟南、漢口、南京、廈門、廣
東、汕頭、福州、芝罘へ転電セリ

總工会ハ昨夜第三回ノ proclamation ヲ發シタリ全部訳文
左ノ通り

工部局ハ昨夜第三回ノ proclamation ヲ發シタリ全部訳文
左ノ通り

団首席の辞意表明について

本省 4月1日前着 発

第四〇五号

首席領事（諾威）ヨリ昼食旁々相談シ度キ事アリトテ特ニ依頼アリタルニ付本日午餐ヲ共ニセル處同總領事ハ共同租界ノ事ハ一二英國軍憲ノ手中ニアリ而モ其遣方ハ總テ支那人ノ感情ヲ苛立タシムル喧嘩腰ニシテ現ニ昨日交渉員ヨリ同人並ニ所員ニ対スル共同租界通行券ノ交付方要求アリタルニ付市参議長ニ照会セル處之ヲ拒絶シ来レルカ如キ

英國總領事ノ差金ナランカスル事態ニテハ自分ハ首席領事ノ任ニ堪ヘサルニ付此際辭退シ度キ希望ナルカ貴見如何カ

トノ相談ヲ持出シタリ然ル処先任順ニ依レハ諾威總領事ノ次ハ白、独、英ナルヲ以テ若シ諾威カ辭退スル事トナラハ

白、独モ亦辭退ス可キ事明ナルニ付結局英國總領事カ首席領事トナリ「ダンカン」少将ト一体トナリ專横ナル振舞ニ

出テ而モ右ハ南軍トノ武力衝突ニ導ク惧アリ当方面ノ和平ノ為是非貴下ノ留任ヲ希望ストテ辭退ヲ思止マル様賴ミ置

タルカ他ノ領事モ同意見ニテ自分ヲ引留メ居レリト語レリ

上記風説ノ何等根拠ナキ事ヲ声明セリ

公使ニ転電ス

租界在住者ハ屢次不安ヲ感シタルカ二日上海防備軍司令官「ダンカン」陸軍少将並ニ仏租界防備司令官「バシル」海軍少将ハ連名ヲ以テ「ステートメント」ヲ發表シ両租界防備軍ハ協力一致両租界ノ防備及ヒ生命財産ノ保護ニ當リ居リ上記風説ノ何等根拠ナキ事ヲ声明セリ

365 昭和2年4月16日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

日本陸戦隊の防護線未成立に英總領事抗議申

し出について

上海 4月16日後発
本省 4月17日前着

第六〇二号

先日英國總領事本官ヲ來訪シ激越ナル口調ニテ又々我陸戰隊カ嚴重ナル防護線ヲ張ラサル以上ハ租界カ何時暴民ノ為襲撃セラルルヤ計リ難シト述ヘ漢口日本租界ノ実例ヲ述ヘテ我海軍ニテ閘北一帯ノ支那街占領ヲ力説シ英兵ハ喜テ之ト共同スヘシト説キタルカ本官ハ蔣介石ノ總工會襲撃ノ計画ヲ承知シ居リタルヲ以テ然ル可ク受ケ流シ置キタル処甚

尚同總領事ハ目下仏租界ノ防備問題其他ニ付仏國總領事非難攻撃ノ焦点トナリ居リ其急先鋒ハ「ド・パック」ナル仏國弁護士ナルカ二三日前流布セラレタル仏國總領事ハ共產党ト関係アリトカ仏國租界ヲ支那ニ二百万両ニテ密ニ売却セントシタルモ計画未然ニ露見シ目下仏國軍艦ニ監禁セラレ居ルトカノ謡言（本官モ之ヲ二三日前耳ニセリ）ノ出所ノ如キモ亦同人ラシク同人ハ仏國總領事ノ為行政委員会ヨリ追出サレタル私怨アルヘキモ其背後ニ英國側ノ在ルモノト信シ得ヘキ節アリト内話セリ

北京ニ転電セリ

364 昭和2年4月3日 在上海矢田總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

共同・仏兩租界防備司令官の協力一致に関する声明について

上海 4月3日後着
本省 4月3日後着

第四四一号

過去一週間ニ亘リ仏租界防備ノ不十分ナル上両租界防備ノ上ノ連絡不完全ナリトノ風説及ヒ新聞記事アリタル結果仏

タ不満ノ態ニテ引取リタリ其後往電第五五六号ノ件実行セラレタルヲ以テ英國側モ安心シタル事ト思ヒ居リタルニ十四日英國總領事再ヒ來訪前説ヲ反覆シ一時形勢緩和セリト雖租界ノ安全ノ為閘北占領絶対必要ナリト説キ立テ其動機ニ付疑ヒヲ抱カシムルモノアリタルニ付本官ハ支那軍憲カ峻厳ナル弾圧ヲ實行シ居ル以上我方ヨリ此際突如平地ニ波乱ヲ起シ事端ヲ釀スカ如キ措置ヲ執ル事ニハ贊意ヲ表シ難キノミナラス本官トシテハ寧ロ反対ニ北四川路方面ノ事態ヲ出来得ル丈ヶ早ク「ノーマル」ニ引戻ス為腐心シ居リ明日ヨリ小学校モ開校スル事ニ決セル次第ニテ其模様ニ依リテハ警備モ漸次緩和スル様我司令官ニ計カラント考へ居レリト断言シタルニ同總領事ハ痛ク失望シ引取りタリ次テ仏國總領事ハ本官ト相談シ度キ事アリトノ事ニテ十六日來訪シ自分モ英國總領事ヨリ同様ノ申出ヲ受ケタルカ貴見如何ト質問セルニ付本官ハ前記ノ通り説明シ上海防備上最必要ナルモノハ兵力ニテモ鉄条網ニモアラス我々ヲ襲撃スル惧アル相手方ノ実情ニ闇スル正確ナル「インフォメーション」ニ在リ然ルニ右情報ハ貴方第一ニシテ共同租界当局ハ甚タシク貧弱ナルカ如シト述ヘタルニ仏國總領事ハ其ノ通リナ

リ敵情ニ通セスシテ徒ニ「アラーミング」ノ報道ニ迷ハサ

レテ緊張シテ睨ミ合ヒ居ルハ困ツタモノナリ仏國カ五百名

ノ軍隊ヲ最近増員シタルカ此兵力ハ實際ニ必要ナリト感ス

ル故ニ非ス只余リニ租界内外國人力騒キ立ツル故彼等ノ精

神ヲ落付クル為ナリト語リ民衆大会アル毎ニ支那軍憲ニ交

渉シテ仮租界ニ立入ラサル様取締ヲ依頼セルカ今日迄ノ處

満足スヘキ取締リ振リナリト述ヘ語ヲ転シテ共產党系トハ

到底交渉ノ余地ナシ列国ハ漢口ニ於テ彼等ノ本拠ニ一擊ヲ

加ヘ外国人ニ対スル觀念ヲ一変セシムルニ非サレハ到底引

揚ケタル外國人ノ帰還スル見込付カサルヘシ云々ト語レリ

公使ヘ転電セリ

366 昭和2年4月21日

（5月11日接受）

諜報機密第三六七号 在上海矢田總領事より

田中外務大臣宛

第三次上海總同盟罷工状況について

昭和2年4月21日 在上海

（5月11日接受）

外務大臣男爵 田中義一殿

總領事 矢田 七太郎（印）

（別紙）

第三次上海總同盟罷工ノ情況

当地共產党及上海總工会ニ於テ内々不穩ノ計画アルコトヲ探知シタル当地駐屯ノ東路前敵總指揮白崇禧ハ共產党ノ機先ヲ抑制スル為メ本月十二日午前四時某所部軍隊ニ命シテ

共產党及上海總工会ノ各枢要機關ヲ一齊ニ襲撃セシメ武装工人及糾察隊ノ武裝解除並一切ノ重要書類ヲ押収シ各機關

ヲ封鎖スルト同時ニ共產党員及總工会ノ各幹部ノ檢挙ニ全

力ヲ注キタリ不意ヲ襲ハレタル共產党及總工会ハ極度ノ恐

慌ト反感ヲ懷キ同日午後一時急遽總工会執行委員長汪寿華

（本名胡宋林）名義ニテ總同盟罷工ヲ実行スヘク並總工会ヨリ復工命令アル迄罷工ヲ繼續スヘシトノ命令ヲ各工会ニ

發シ以テ其威力ヲ示シ反抗的暴動ヲ起サント努メタリ然ル

第三次上海總同盟罷工情況ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ不取敢四月十二日往電第五五〇号同第五六一号ヲ以テ及報告置キタル處尙ホ罷工情況ニ付キ別紙ヲ以テ報告ス

本信写送付先 在支公使、漢口、廣東

元來罷工職工ノ大部分ハ從來一部不穩分子糾察隊等ノ暴压ニ畏怖シ已ムヲ得ス罷工ニ盲従シ来レルモノナルヲ以テ嚴重ナル軍隊側ノ取締ニ鑑ミ漸次穩健分子ノ勢力ヲ増シ前回ニ比シ罷工命令完全三行ハレス市中ハ乗合自動車、電車、無軌道電車等交通機関ノ大部分ハ平日通り運転ヲ持続シ電信、郵便局、水道瓦斯、電氣等ノ公共機関ハ勿論各汽船ノ

二軍隊側ノ取締益嚴重ヲ加ヘ共產党幹部及逃竄糾察隊武装工人等不良分子ノ檢挙ヲ勵行シタル外更ニ同日（十二日）戒嚴司令白崇禧及同副司令周鳳岐連名ヲ以テ濫リニ罷工ヲ煽惑シ地方ノ治安ヲ擾乱スルモノハ中國國民革命ヲ破壊スル奸徒ナルヲ以テ戒嚴條令ニ照ラシ嚴重ニ処分スル旨ノ布告ヲ發シ一方工人ノ動搖ヲ防止シ且ツ人心收攬ノ便法トシテ翌十三日上海總工会及上海工界聯合總會（上海工界聯合總會ハ西山會議派国民党ニヨリ組織セラレタルモノ）ノ名義ヲ取消シ両会ヲ改組シテ上海工連總會ト成シ新ニ上海工會組織統一委員會ヲ創設シテ前記工會ニ關スル一切ノ事項ヲ完全ニ指導弁理シ以テ工會ノ紛糾ヲ永久ニ除去スル旨ノ声明ヲ發シタリ之レカ為メ各工會員ニ多大ナル衝動ヲ与ヘ表面ニ立ツテ罷工ヲ煽動スルモノ影ヲ潜メタルノミナラス元來罷工職工ノ大部分ハ從來一部不穩分子糾察隊等ノ暴压ニ畏怖シ已ムヲ得ス罷工ニ盲従シ来レルモノナルヲ以テ嚴重ナル軍隊側ノ取締ニ鑑ミ漸次穩健分子ノ勢力ヲ増シ前回ニ比シ罷工命令完全三行ハレス市中ハ乗合自動車、電車、無軌道電車等交通機関ノ大部分ハ平日通り運転ヲ持続シ電信、郵便局、水道瓦斯、電氣等ノ公共機関ハ勿論各汽船ノ

海員工會（碼頭苦力ヲ含ム）ノ罷工モ有耶無耶ニ終リ船員勝手ニ就業シ同日入港セル各汽船及ヒ小蒸汽船等ニ波及スル處ナク平素通り運転ヲ継続セリ但シ中外ノ紡績工場ハ別紙記載ノ通リ罷工第一日（十三日）西部ハ全部（内外綿、日華紡、豊田紡等）運転ヲ中止シ罷工ニ從事シタルモ東部ハ僅ニ上海紡績第一工場ノミ罷工シ其他ノ公大、同興、裕豐、大康、東華、上海紡（第二、第三工場）ノ各紡績工場ハ運転ヲ持続シタルカ罷工第二日目（十四日）ニ至リ前日運転シタル東部ノ大康、東華ノ二紡績罷工ニ投シタルカ公大、同興、裕豐、上海紡（第二、第三）ノ各紡績ハ尙ホ操業ニ從事シ遂ニ罷工スルニ至ラス罷工ノ状態上記ノ如ク全ク振ハス一部工會ノ代行者ハ復工命令發出方ヲ總工會ニ要求シタリトモ伝ヘラレ此上罷工ヲ続行スルニ於テハ却テ一般工人ノ反動ヲ來スヘキ状態ナリシカ總工會ハ本月十五日（罷工三日目）ニ至リ復工命令ヲ發シタリ其表面ノ理由トシテハ勞資双方間ノ損失ヲ顧慮シ復工ヲ命シタルモノノ如ク発表シタルモ其実共產党ヨリ各級同志ニ宛テタル冠字通告第二号ニ依レハ「總工會ハ熱烈ナル罷工ヲ以テ反動的新軍閥ニ奮闘対抗セント欲シタルモ無援孤立ノ奮闘ハ到底長

ク維持シ難キヲ以テ各部委員ハ目前ノ罷工ヲ一段落トシ
齊ニ復工スヘシ」云々ト命令シタリ本命令ニ接シタル罷工
中ノ各紡績工場ハ從前ヨリ休業中ノ内外綿第九工場及日華
紡績曹家渡第三、四工場ヲ除ク外大部分ノ復工ヲ見タルカ
同十八日ニ至リ客月十五日ヨリ休業中ノ内外綿第九工場モ
事件解決ヲ告ケ復工シ唯夕日華紡績第三、四工場ノミハ職
工等ノ反省スルニ至ル迄操業ヲ中止シ居レルカ多數ノ職工
ハ生活難ニ迫リ復工ヲ要望シ居レリト云フ

要スルニ這回総工会ノ発シタル罷工命令ハ革命軍ノ為メニ

一挙ニシテ其根底ヲ覆滅セラレ之レカ苦衷ノ反抗策トシテ
罷工ヲ挙行シ以テ其威力ヲ示シ攪乱セント計リタルカ如キ
モ一般工人ノ趨向既ニ總工会ノ予期ニ反シ威令全ク振ハサ
リシハ軍隊側ノ取締嚴重ニ向ヒタルト云ヘ一般ニ共産党ノ
横暴ナルニ漸ク目醒メタル結果ニ外ナラスト思料セラル
尚ホ總工会ハ上海工連組織ヲ絶対否認シ前總工会委員長汪
寿華（汪寿華ハ本月十二日革命軍ノ為メ捕縛サレ銃殺セラ
レタリトノ説有力ナルモノノ如シ）ノ後任トシテ施英（共
産党员ニシテ雑誌「嚮導」ノ主筆）各工会ヲ指揮統一スル
コトトナリ暗々裡ニ恢復策ヲ講シツツアルモ局面転換ヲ見

尚ホ罷工中ノ邦人經營各紡績工場ニ於ケル狀況次ノ如シ
中ノ各紡績工場ハ從前ヨリ休業中ノ内外綿第九工場及日華
紡績曹家渡第三、四工場ヲ除ク外大部分ノ復工ヲ見タルカ
同十八日ニ至リ客月十五日ヨリ休業中ノ内外綿第九工場モ
事件解決ヲ告ケ復工シ唯夕日華紡績第三、四工場ノミハ職
工等ノ反省スルニ至ル迄操業ヲ中止シ居レルカ多數ノ職工
ハ生活難ニ迫リ復工ヲ要望シ居レリト云フ

サル限リ現下ノ状勢ニ在リテハ到底挽回ノ見込ミナカルヘ
シ
尚ホ罷工中ノ邦人經營各紡績工場ニ於ケル狀況次ノ如シ
中ノ各紡績工場ハ從前ヨリ休業中ノ内外綿第九工場及日華
紡績曹家渡第三、四工場ヲ除ク外大部分ノ復工ヲ見タルカ
同十八日ニ至リ客月十五日ヨリ休業中ノ内外綿第九工場モ
事件解決ヲ告ケ復工シ唯夕日華紡績第三、四工場ノミハ職
工等ノ反省スルニ至ル迄操業ヲ中止シ居レルカ多數ノ職工
ハ生活難ニ迫リ復工ヲ要望シ居レリト云フ

要スルニ這回総工会ノ発シタル罷工命令ハ革命軍ノ為メニ

一、西部 日華、豊田紡績ハ前日同様運転中止シタルカ
内外綿ハ第三、第四工場ノミ就業シ工人ノ約
八割ノ出勤ヲ見タルカ午前八時工会ヨリ代表
來リ工人ニ対シ何故運転スルヤト詰問サレ再
ヒ休止ノ止ムナキニ至レリ
二、東部 上海紡績工場ノミ罷工中ナリシカ本日ヨリ大
康、東華運転ヲ中止シ同興、公大、裕豐及上
海紡第二、第三工場ハ尚ホ運転ヲ繼續セリ
四月十五日（罷工三日目ニシテ復工命令ヲ発シタル日ナリ
一、西部 内外綿ハ第九工場（罷工命令前ヨリ休業）ヲ

一、西部 全部（内外綿、日華紡、豊田紡）罷工ス
二、東部 上海紡績第一工場ノミ罷工シタルカ其他公
大、同興、裕豐、大康、並ニ上海紡第二、第
三工場ハ運転ヲナシツツアリ

要スルニ這回総工会ノ発シタル罷工命令ハ革命軍ノ為メニ

一、西部 日華、豊田紡績ハ前日同様運転中止シタルカ
内外綿ハ第三、第四工場ノミ就業シ工人ノ約
八割ノ出勤ヲ見タルカ午前八時工会ヨリ代表
來リ工人ニ対シ何故運転スルヤト詰問サレ再
ヒ休止ノ止ムナキニ至レリ
二、東部 上海紡績工場ノミ罷工中ナリシカ本日ヨリ大
康、東華運転ヲ中止シ同興、公大、裕豐及上
海紡第二、第三工場ハ尚ホ運転ヲ繼續セリ
四月十五日（罷工三日目ニシテ復工命令ヲ発シタル日ナリ
一、西部 内外綿ハ第九工場（罷工命令前ヨリ休業）ヲ

一、西部 全部（内外綿、日華紡、豊田紡）罷工ス
二、東部 上海紡績第一工場ノミ罷工シタルカ其他公
大、同興、裕豐、大康、並ニ上海紡第二、第
三工場ハ運転ヲナシツツアリ

除ク外全部復工ス

日華紡ハ曹家渡第三、第四工場（罷工命令前

ヨリ休業）ヲ除ク外全部復工ス

二、東部 上海紡績ハ第一工場ヲ除ク外第二、第三工場

運転ス同興紡ハ職工ノ出勤過少ナル為メ会社

側ヨリ運転ヲ休止セリ

公大ハ第一、二工場運転シ東華、日本紡、裕

豊紡ハ休業セリ

尚ホ支那人經營工場ハ全部休業シ英國人經營

ノ紡績ハ揚樹浦工場ノミ運転シタリ

四月十六日（復工命令後第二日目）

一、西部 内外第九工場、日華第三、第四工場及豊田紡

ヲ除ク外全部復工ス

二、東部 全部復工ス

支那人經營 揚樹浦ニ於ケル一工場ノミ復工
英國人經營 揚樹浦工場ノミ復工セルハ前日ノ

通リ

因ニ復工セサル邦人經營中日華、内外綿ノ両工場ハ從前
ヨリノ関係ニシテ豊田紡績ハ昨日來職工側ヨリ工場ヲ開

对中国出兵に関する極東部長の内話について

ロンドン 省 5月28日前着 発

第一六四号（極秘）

二十六日極東部長ノ堀内ニ対スル内話要領

（一）（在米大使宛貴電第二二六号ノ情報ヲ内報セラレタルニ
對シ）

英國側ノ情報モ大体同様ナルカ在北京英代理公使カ最近
ノ形勢ヲ重大視シ此際他国政府ヨリ京津方面危急ノ場合
外国人保護ノ為出兵ノ意アルコトヲ予メ言明スルニアラ
サレハ英國单独ニ軍隊ヲ同方面ニ派遣スルモ無益ナルヘ
キニ付結局自国人引揚ノ外途ナク夫レカ為ニハ今日ヨリ
為念予備的ノ手配丈ニテモナシ置クノ要アリ

（二）京津方面危急ノ場合ニ日本ハ応急措置ヲ執ルニ便ナル地
位ニアルモ英國トシテ出兵或ハ引揚何レノ途ニ出ルモ相
当ノ時日ヲ要ス万一列國ノ行動時機ヲ失スルカ如キコト
アラハ極メテ恐ルヘキ結果ヲ招クヘシ

英國政府ハ素ヨリ単独行動ニ出ツルノ意ナク就中日本政
府ノ執ルヘキ措置切ニ知リ度考ヘ居ル次第ナリ（本問題
位ニアルモ英國トシテ出兵或ハ引揚何レノ途ニ出ルモ相
当ノ時日ヲ要ス万一列國ノ行動時機ヲ失スルカ如キコト
アラハ極メテ恐ルヘキ結果ヲ招クヘシ

米へ転電シ仏伊へ暗送セリ

368 昭和2年5月30日 在上海矢田總領事より

田中外務大臣宛（電報）

五・三〇記念日の状況報告について

上海 5月30日後発 本省 5月31日前着

第八〇一号

当地五三十記念日ハ前日来国民党宣伝部カ戸別訪問シテ總
罷業ヲ勧告シタル結果支那側各商店会社学校工場等ノ殆ト

全部休業シテ午後一時支那軍艦ハ弔砲ヲ放チ民衆ハ三分間

黙禱ヲ行ヒタル外租界外三ヶ所ニ記念大会行ハレタルモ何
レモ來会者少ク氣勢揚ラス市内外ニハ擁護南京政府、打倒
英日帝国主義等ノ伝單撒布セラレ中ニハ稀ニ濟南出兵ト云
フモアリタルカ租界内ニ貼付セラレタル排外的「ボスター
」ハ租界警察ノ手ニテ總テ取り除カレタリ又今朝來南京
路ニテ打倒蔣介石、打倒江南晚報等ノ伝單ヲ撒布シタリシ
共産系ノ人物數名検挙セラル尚本日支那商店ノ外露國總領
事館カ半旗ヲ掲ケタルハ人目ヲ引キタリ

要スルニ本記念日ハ内外軍憲警察官等ノ警戒厳重ニシテ格
別ノコトナク経過シタリ

北京、芝罘、濟南、青島、天津、奉天、漢口、廣東、福州、
廈門、汕頭へ転電セリ

369 昭和2年8月30日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

日英協調及び上海派遣軍隊縮小に関する英公
使談話について

北京 8月30日後着 発

ニ付テハ在北京公使ノ協議ヲ離レ英政府ハ直接他国政府
へ交渉シ居ラス

（三）英國ノ最後ニ派遣セル一個旅団ハ香港到着ノ頃ナルカ上
海ノ形勢モ先ツ静穏トナリ差向キ増兵ノ要ナキニ付當分
香港ニテ命ヲ待ツ筈

（四）「ニュウトン」ハ漢口引揚後南京ニ止マル筈ナリシカ或
事件ニテ上海ニ到リ目下「ランブソン」陸海軍司令官等
ト協議中ナリ南京政府ニ対シテハ未タ何等關係ヲ開カス
先ツ同政府ニ付テノ意見ヲ公使ヨリ徵スルコトナルヘ
シ

第九三七号

二十五日英國公使ニ面会ノ際同公使ハ最近日本ノ積極政策
ト云フコト頻ニ新聞紙ニ伝ヘラルカ右ノ如キ事實アリヤ
ト尋ネタルニ付本使ハ右ノ言葉ハ甚タ「ミスリー・ディング」
ナリ日本ハ何等積極乃至侵略的政策ヲ行フカ如キ考ヘ毛頭
ナシ單ニ從來ノ懸案ヲ解決セムトスルニ過キス現ニ今朝ノ
新聞ニモ出テ居ル通リ日本政府ハ目下山東撤兵ヲモ考慮中
ニシテ（但シ此ノ点ハ貴公使限りノ含ミニ願ヒ度シト付言
シ置ケリ）日本政府ノ政策ハ far from aggressive or pos-
itive ナルカ只其ノ經濟的根拠地ヨリハ居留民ヲ引揚ケシ
メス又支那ニ於テハ日英間ニハ共通ノ「インテレスツ」ア
リ成ルヘク英國ト協調シ度キ考ヘナリ日本政府ノ政策モ要
スルニ此ノ位ナリト述ヘタル處英國公使ハ大ニ満足ノ意ヲ
表シ实ハ英國政府モ上海ノ駐兵ヲ非常ニ減少シ度シトノ考
ヲ有シ自分ノ意見ヲ求メ來リタルヲ以テ

（2）自分ハ「マイナー・リダクション」ナラハ可ナルヘキモ「メ
ージャー・リダクション」ハ政策上ヨリ云フモ面白カラス
ト答申シ置キタリト述ヘタリ依テ本使ハ最初英國カ上海ニ
派兵セル際「チリット」提督ノ意見ニテハ一ヶ師団ヲ要ス

トノコトナリシカ同提督ハ減兵ニ対シ如何ナル意見ヲ有ス
ルヤト質ネタル處英國公使ハ「チリット」モ「ダンカン」
モ現状ニ於テハ一ヶ師団以下ニ減シ差支ヘナキモ唯政治上
ノ見地ヨリ云ヘハ此際甚タシク減兵スルハ如何カトノ意見
ニ対シテハ其意見ヲ上申セル次第ニテ政府ハ之ヲ考慮中ト
思フト答ヘタリ

尚仏國公使モ上海同國總領事ハ日本撤兵ノ情報ヲ仏國政府
ニ電報シ居ル処右ハ事實ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ極秘
トシテ日本政府ハ目下考慮中ナリト答ヘ置キタリ

上海ニ於ケル英國ノ減兵ニ閔スル英公使ノ談話ハ同公使ノ
依頼モアリ極秘扱ヒアリタシ

上海へ転電セリ

370 昭和2年8月31日 在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

英國上海派遣軍五大隊撤退の情報について

北京 8月31日後着 発

第九四一号

八月三十日英國公使ノ語ル處ニ依レハ英國ハ上海派遣軍ノ

シテ特ニ歓迎スヘキコトナリ支那ノ事態ハ依然トシテ混亂
ヲ続ケ居リ從テ政府今回ノ措置ヲ以テ同國ノ内乱近ク終止
スヘシト認メタルモノト想像スヘキニアラス寧ロ当初ノ出
兵カ不需要ノ大軍ナリシニ基クモノト觀ルヲ穩当トスヘシ
何レニセヨ支那軍憲中真面目ニ外國軍隊ト戰ヲ構ヘムト考

フルモノナク居留民ノ保護モ居留民ヲ充分ニ集中セハ殆ト
困難ナキ問題ナリト論シタルカ右社説中日本ノ山東撤兵ニ
言及シ最近孫伝芳ノ一頓挫三依リ上海ハ今直ニ再ヒ戰乱ノ
巷ト化スルノ危険ヲ免レタリト雖右ハ同時ニ日本ニ対シ撤
兵尚早ノ感ヲ与フヘシト述ヘ居レリ

(付記一)

在支英國軍隊撤退ニ閔スル件

(昭和二年九月一日)

九月一日在本邦英國大使館ヨリ出淵外務次官ニ対シ本国政
府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ左ノ通り申入レタリ
英國政府ハ支那方面ヨリ次ノ如ク軍隊ノ撤退ヲ行フ

一、歩兵五個大隊ヲ撤退ス 即

(イ)在上海一個大隊、十月中旬以後実行

内五ヶ大隊(現勢力ノ約三分ノ一)ヲ撤退スルコトニ決定
シタリト
右ハ迫テ駐日英國大使ヨリ貴大臣へ通報アル由ナルモ不取
敢御参考迄

上海へ転電セリ

371 昭和2年9月(2)日 在英國松井大使より
田中外務大臣宛(電報)

英國上海防衛軍一部引揚に関する新聞論調について

付記一 昭和二年九月一日英國軍隊の一部中國よりの
撤退について

二 昭和三年二月二日在中國英國軍隊の一部撤退について

三 昭和二年七月十九日調在中国各國兵力一覽表
ロンドン 本省 9月2日前着 発

第二七七号

英國上海防衛軍一部(歩兵四個大隊野砲兵一個大隊)引揚
声明ニ閔シ一日「ガージアン」ハ社説ニ於テ右ハ財政上ノ
負担ヲ輕減スルト共ニ内閣ニ對スル信任ヲ回復スルモノト

(付記二)

在香港三個大隊、十月中旬實行

(イ)在威海衛一個大隊 十月中旬實行

但内一個中隊ヲ殘留セシム

二、海兵、在上海海兵ノ半數ヲ直ニ撤退セシム、殘余ハ
年末ニ撤退ス

三、砲兵一個旅團ヲ明年二月印度ニ帰還セシム

尚航空隊モ追々撤退スルコトトナルヘシト思ハル

(欄外記入)
陸軍省阿部軍務局長海軍省左近司軍務局長ヘ九月二日木村亞細
亞局長ヨリ本紙写送付済(公信原紙文書課)

(付記二)

在支英國軍隊一部撤退ニ閔スル件

(昭和三年二月二日)

(欄外記入)
昨秋英國ハ支那時局ノ状勢ニ顧ミ其ノ在支派遣軍隊ヨリ歩
兵五個大隊ヲ撤退セシメ又在上海海兵及野砲兵一個大隊ヲ
モ客年末ヨリ本年ニ亘リテ撤退セシム予定ナリシカ今般
同國政府ハ更ニ上海ヨリ歩兵一個大隊ヲ近ク本国ニ引揚ク
ルコトニ決シタル趣ナリ右撤退ノ結果在支英國軍隊ハ支那

五 北伐と租界問題

國		英		本 日	
軍 海	民海 警 隊 兵	軍 空	軍 陸	軍 海	
其駆他若干			(威野衛大門(約一大(約九〇〇))	北(天津)榴弾砲二門 步二大(約一、五〇〇)	(芝(天津)栗(天津)盤對桑(天津)馬、椿(天津)平戸、常(天津))
河駆航巡母七一〇	義海勇兵一大(約一、七〇〇)	海軍協同(約二〇機)		裝工山野步六大(約五、四〇〇) 装甲兵一中中(約一、三〇〇) 自動車二中(二二一)	(沙(長江)柳(長江)內(長江)口(長江)治(長江)湖(長江)漢(長江)九(長江)蕪(長江)南(長江)鎮(長江)一(長江)矧(長江)市(沙(長江))安(長江)嵯(長江)桃(長江)堅(長江)比(長江)天(長江)時(長江)浜(長江)磯(長江)隅(長江)驅(長江)多(長江)驅(長江)一(長江)驅(長江)二(長江)驅(長江)一(長江)驅(長江)八(長江)驅(長江)〇(長江)驅(長江)田(長江)良(長江)津(長江)風(長江)田(長江)撃(長江)浦(長江)鳥(長江)羽(長江)檜(長江)川(長江))
潛駆航巡母八五一	其河他若干	海軍協同(約二〇機)	陸軍協同(約二〇機)	中輜工重山野步七大(約一、三〇〇) 重兵砲二六大(約一、二〇〇) 自動車一(二二一)	(汕頭)菊(汕頭)
潛駆航巡母二〇二二	義海勇兵一、七〇〇	約七〇機		輜重(自動車(五二一中台)) 裝工重野步六大(約一、二〇〇) 甲兵砲二六大(約一、二〇〇) 自動車二中(二二一) (三二〇人)	
面外に若干あり「コロンボ」方				一、せ側りに英し前後飛行は九なり場設備東	一、果は空軍の配置を調査の変更 二、せりに英し前後飛行は九なり場設備東

本 日		在支列國兵力一覽表	(注、海軍日に関するものは六月軍令部発表による)	南 支	合 計	備 考
國軍別	地方別	(海軍は北支沿岸)	(上海)利根、八雲、矢一(廣東)宇治、葵			
(旅順)櫛	京津八地方(京、津、海、閑、步、二、中、其、他、若、干)	張店工砲步三三旅(一、二、小、大、旅、間、(二、二五〇)) 10B(四、二五〇)の主力	(天津)海關、步五中、其、他、若、干	(天津)京、津、海、閑、步、二、中、其、他、若、干		

駐屯軍約三個大隊（北支一、香港二）ノ外臨時派遣部隊約八大隊（内四個大隊ハ上海三個大隊ハ香港一個大隊ハ北支ニアルモノノ如シ）トナル次第ナルカ客年十二月英國政府

当局ノ同國下院ニ於テ説明スル所ニ依レハ同國政府ハ在支英人ヲ保護シ得ル如キ支那政府ノ成立スル迄ハ右派遣部隊全部ノ引揚ヲ行ヒ得サルヘシトノ意向ナルカ如シ
(欄外記入) 西園寺公へ提出ノ為二月二日原田秘書ニ交付済

(付記三)

(3) 北京（外国公館所在区域）・天津

関東、北京、天津済

英軍司令官「ダンカン」少将ハ帰国スルコトニ決定シ後任

ハ一九三三年以来印度ニ在リシ「アレキサンダー、ビー、

ウォドロップ」少将ニシテ一月二十五日頃着任スト

上海電第一八七号

(12月21日外務省写接受)

第三二六号

本使発天津宛電報

第一五号

12月19日後發
12月19日後着昭和2年12月19日 在上海重藤中佐より
南(次郎) 参謀次長宛 (電報)

ダンカン英司令官帰国について

373 昭和2年4月1日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛 (電報)華北治安維持に關し山海關の守備兵配置は必
要なしとの英、米公使の意見について北京 4月1日後發
本省 4月1日後着

国伊		
海軍	陸戦隊	陸軍
潜砲母一	(未交代帰還後) 一五〇	砲四六〇
河巡砲一	二〇〇 るもに艦隊には上陸し得 るに艦隊には上陸し得 るに艦隊には上陸し得	

國仏		
海軍	陸軍	軍海
	北 京 天 津 步 大 (約 四 〇 〇)	其潛駆 他母八 千 步 大 (約 四 〇 〇)
	計 約 一 、 四 〇 〇 ()	
河砲裝巡 三	約 一 、 〇 〇 〇	山狙 步二 大 小 約 曲 戰 一 步 砲 五 〇 小 〇
		河砲巡 裝巡 一 二 其駆 他若干
河砲二 二		廣 東 步一 中 約 二 〇 〇
河巡砲一	三 五 〇	砲四 (履 閉 及 廣 東)
河巡砲一 潜砲母一	砲四六門 あり	其潛駆 他若干
		廣 東 步一 中 約 二 〇 〇
河巡砲五 一	約 一 、 〇 〇 〇	砲狙 步二 中 大 と 一 中 合 計 三 、 一 小 (六 〇 〇)
		其潛駆 他若干
二、艦 尚船若 干增遣 中の巡 二	一、別 に印度支 那に 予定に定 ル一歩が 不著の大 六月中旬 の予定な り	一、 し天津 歩が著 大六月中 旬
	三、の 予定に定 ル一歩が 不著の大 六月中旬 の予定な り	二、 し天津 歩が著 大六月中 旬
	步二 大統行	三、 の 予定に定 ル一歩が 不著の大 六月中旬 の予定な り
		比島 には艦船 若干あ

四月一日外交團會議ヲ開キ北支方面ノ治安問題ヲ協議シタル際鐵道守備兵ノ内山海關方面 outposts ハ必要無シトノ議論起リ英米公使ハ米國司令官ハ右ノ説ヲ唱ヘ居リ寧ロ中央部ニ之ヲ留メ置ク方兵力ヲ集中スル事トナリ得策ナリト